本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

大阪支社	〒550	大阪市西区千代崎3-2-95	電話 大阪06(586)3200
南部支社	〒590	堺市住吉橋町2-2-19	電話 堺 0722(38)1131
北部支社	〒569	高槻市藤の里町39-6	電話 高槻0726(71)0361
東部支社	〒578	東大阪市稲葉2-3-17	電話 河内0729(62)1131
兵庫支社	〒650	神戸市中央区東川崎町1-8-2	電話 神戸078(360)3100
京都支社	〒604	京都市中京区烏丸御池梅屋町358	電話 京都075(231)8151
奈良支社	〒631	奈良市学園北2-4-1	電話 奈良0742(44)1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町1-5	電話 和歌山0734(31)2481
兵庫西支社	〒670	姫路市神屋町4-8	電話 姫路0792(85)2221
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町6-57	電話 豊岡0796(23)2221
湖南支社	〒525	草津市追分町字荒堀680-1	電話 草津0775(62)5311
彦根支社	〒522	彦根市大東町12-11	電話 彦根0749(22)3131
(長浜営業所)	〒526	長浜市南呉服町3-4	電話 長浜0749(62)7171
本社・ガスビルサービスセンター	〒541	大阪市中央区平野町4-1-2	電話 大阪06(202)2221

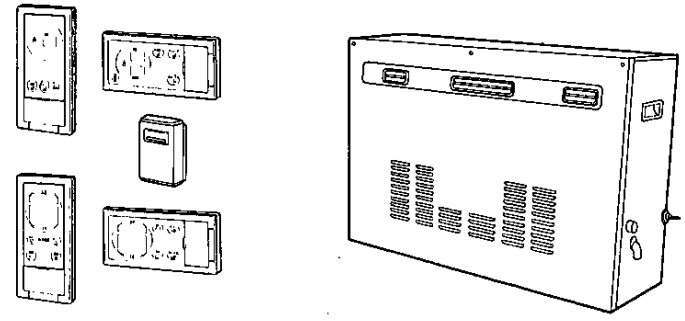
大阪ガス株式会社

屋外設置型

ガス風呂給湯器・ガススチーマ

31−015 型

型式 GX−J241RX



取扱説明書

大阪ガス

ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。なお、ご不明な点があればお買い上げの販売店にお問い合わせください。

ごあいさつ

このたびは、大阪ガスのガス風呂給湯器・ガススチーマを、お求めいただきましてありがとうございました。

別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保存してください。

もくじ

- 特長・機能の紹介…… 2
- 必ずお守りください…… 3
- 各部のなまえと扱いかた…… 7
- 初めてお使いいただくときに……13
- 使用方法……15
- 凍結予防方法……28
- 故障かな？と思ったら……31
- 点検・お手入れ……34
- 仕　様……36
- 保管とアフターサービス……37

特長・機能の紹介

スチーム

スチーム浴で、すばらしい快適バスライフ！

- 浴室がそっくりスチームバスに…
- すこやかな汗で、身も心もリラックスする健康浴
- 寒い日の一番風呂もあったかい浴室暖房

ふろ

スイッチぽんで自動お湯はり！

- おふろはふたをしたまま、自動お湯はりができます。（２階浴室への自動お湯はりもできます。）
- お湯はり後、水位が下がると自動たし湯、また湯温が下がると自動追いだきをします。

給湯

余裕の２４号大出湯！

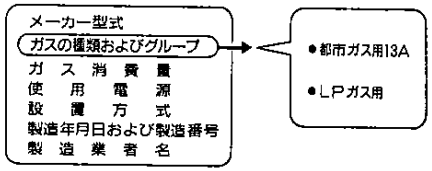
- 冬場の２ヵ所同時給湯も余裕の２４号パワーで使えます。
- リモコンの湯温調節でお好みの給湯・シャワー温度が得られます。

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくためにこの項は必ずお読みください。

●使用ガスについてのご注意

- ガスの種類を確かめてください。
  器具本体正面左下部に貼ってある銘板(ラベル)に表示のガスの種類およびガスグループ以外では使用しないでください。



- ガスの種類には、都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスには、ガスグループの区別があります。
- 転宅されたときにも、供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。

●使用電源についてのご注意

- この器具はＡＣ100Ｖ・50／60Ｈｚ用です。お宅の電源の電圧と周波数が一致しているかお確かめください。

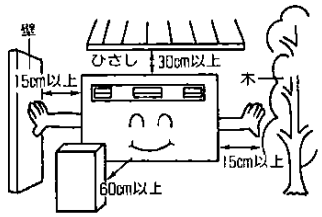
●器具の設置について

- 器具の設置・工事は、お買い上げの販売店、またはもよりの大阪ガス支社に依頼し安全な位置に正しく設置してご使用ください。

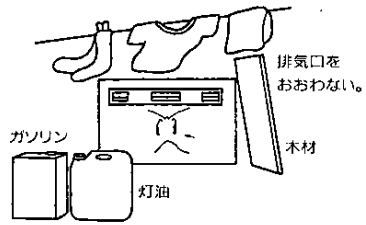
●使用上のご注意

■火災予防

- 壁・その他の可燃物から十分離れている場所で使用してください。



- 器具のそばに燃えやすいもの(紙、洗濯物揮発油など)を絶対においたり近づけたりしないでください。
  特に排気口は、洗濯物などで、おおわないでください。不完全燃焼や異常過熱の原因になります。



■過熱防止

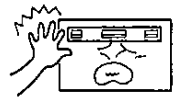
- ふろがまと浴そうを接続している風呂アダプターをタオルなどでふさがないでください。

■用途について

- 給湯・ふろのお湯はり・追いだき以外の用途には使用しないでください。
  スチームバス以外の用途には使用しないでください。

■やけどに注意

- 使用中や消火直後は、器具本体の排気口やその周辺は熱くなりますので手をふれないでください。
- 器具右側面の排水口から高温水を排水するため手をふれないでください。



- スチーム吐出器の付近は高温になります。特にお子様にはご注意ください。
- シャワーなど使用後すぐに再度お使いになるときは、手で湯温を確認してからお使いください。（一瞬熱いお湯がでることがありますのでご注意ください。）

必ずお守りください

■市販の補助用具は

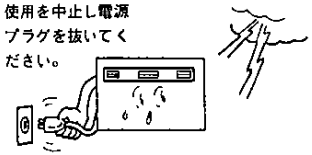
- この器具の付属品・補助用具以外は使用しないでください。

■健浴剤・洗剤について

- 硫黄・酸・アルカリを含んだ健浴剤や洗剤は熱交換器が腐食する原因になりますので、健浴剤等のご注意文を十分ご参照ください。

■雷のときは

- 使用を中止し電源プラグを抜いてください。



■飲用にお使いのとき

- 器内に長時間たまっていた水は、飲用または調理に用いないでください。

●ガス事故防止

■ガス漏れに気づいたときは

- すぐに使用をやめて、ガス元栓を閉め、お買い上げの販売店、またはお近くの大阪ガス支社にご連絡ください。
  （絶対に使用しないでください。）
- また絶対に火をつけたり、電源プラグの抜き差しや、近くの電気器具の「入・切」をしないでください。

■燃焼状態の確認

点火・消火のほか、使用中もときどき正常に燃焼していることを、リモコンの「燃焼表示🔥」で確認してください。

■使用後は

リモコンの運転スイッチを切ってください。

■長時間使用されない時

リモコンの運転スイッチを「切」にし、ガス元栓を閉めてください。
また、冬期には、凍結予防のための処置を行なってください。

●凍結についてのご注意

冬期は暖かい地方でも急な寒波のため、器具内の水が凍り器具が破損することがありますので器具内の水が凍るおそれのあるときは、凍結を予防する処置を必ず行なってください。
（28～30ページの「凍結予防方法」の項に従って処置をしてください。）

●使用中異常がおこったら

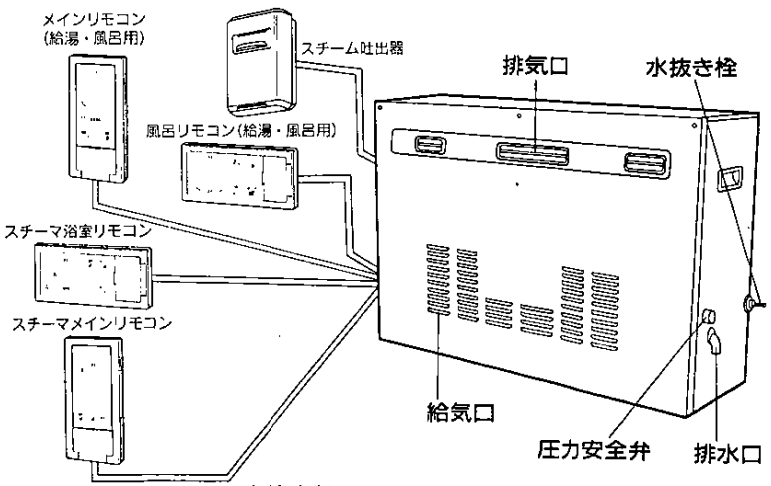
ご使用中にふだんと違った状態になったときや、地震・火災の場合すぐに使用をやめてリモコンの運転スイッチを切り、ガスの元栓を閉めてください。
（31～33ページの「故障かな？と思ったら」の項に従って処置をしてください。）

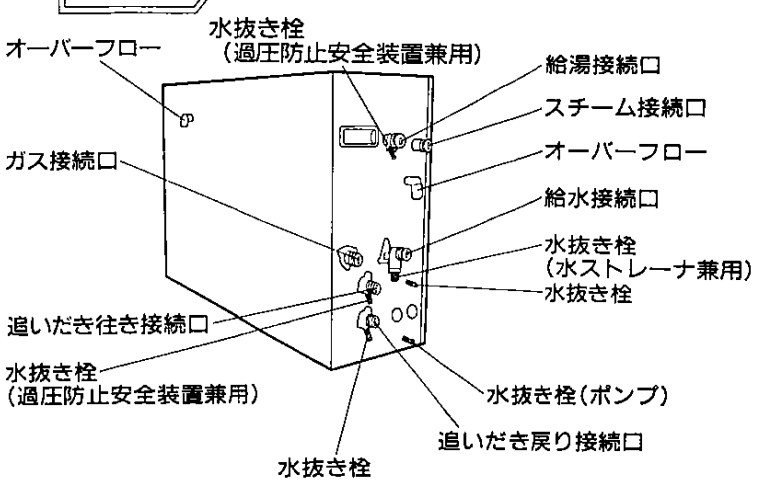
●停電がおこったら

- 停電の時は給湯栓を閉めてください。
- 再通電時は時刻表示が「 0:00 」になります。
- 現在時刻設定・ふろ予約時刻設定・給湯温度設定・ふろ温度設定を行なってからお使いください。
- 再通電時は、使用方法(15ページ)に従って操作してください。

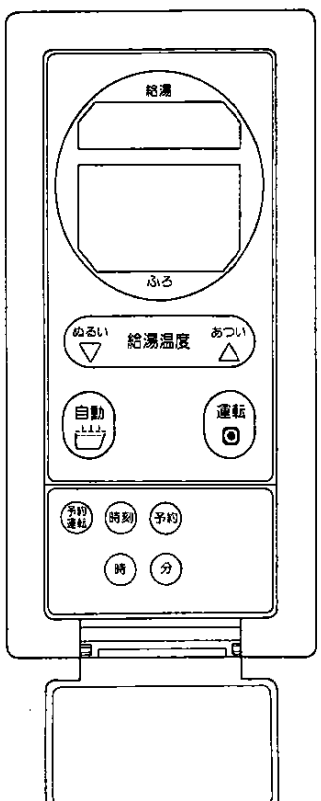
各部のなまえと扱いかた

●外観・構造





●メインリモコン（給湯・ふろ用）



風呂運転表示部
風呂側の運転状態を表示します。

給湯温度切替スイッチ
給湯・シャワーでお使いになる温度に設定します。(P16)

自動スイッチ
風呂を自動運転するときに「入」にします。(P18)

予約運転スイッチ
自動運転を予約で行なう時に押します。(P22)

「時」「分」スイッチ
現在時刻や予約時刻を合わせるスイッチです。(P15,21)

給湯運転表示部
給湯側の運転状態を表示します。

運転スイッチ
運転するときに「入」にします。

予約設定スイッチ
自動運転を予約で行なうとき予約時刻を設定するスイッチです。(P21)

時刻設定スイッチ
現在時刻を設定するスイッチです。(P15)

各部のなまえと扱いかた

●風呂リモコン（給湯・風呂用）

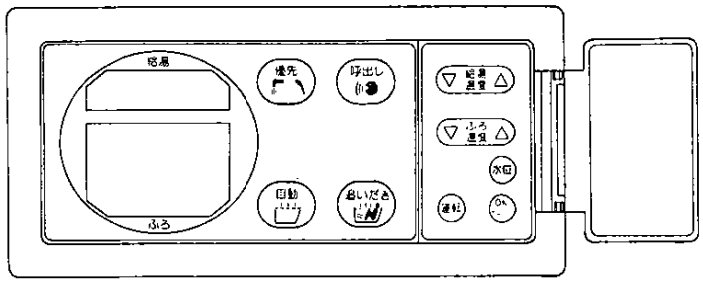
給湯温度切替スイッチ
給湯、シャワーの温度設定ができます。(P16)

風呂温度切替スイッチ
自動運転、追いだきをするとき適切な温度に合わせます。(P17,20)

給湯運転表示部
給湯側の運転状態を表示します。(P10)

優先スイッチ
風呂リモコンで給湯温度を設定するときに「入」にします。(P16)

呼び出しスイッチ
押すとメインリモコンのブザーがなります。
ご自由にお使いください。



風呂運転表示部
風呂側の運転状態を表示します。(P10)

自動スイッチ
風呂を自動運転するときに「入」にします。(P18)

OKモニタースイッチ
過去のエラー表示を確認するスイッチです。(P32)

水位設定スイッチ
自動運転時に水位を設定するスイッチです。(P17)

追いだきスイッチ
風呂を追いだきするときに「入」にします。(P20)

運転スイッチ
運転するときに「入」にします。

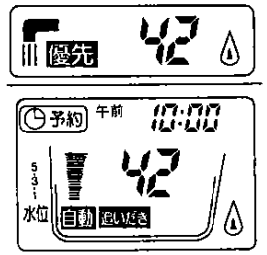
●表示部（メインリモコン・風呂リモコン）

通水表示
給湯・シャワー・風呂へのお湯はりのとき表示します。

優先スイッチ
表示しているリモコンで給湯の温度調節ができます。

給湯温度表示
給湯側の温度設定を表示します。
お湯はり中は風呂温度表示と等しくなります。

予約運転表示
メインリモコンの「予約運転スイッチ」を押すと表示します。



給湯燃焼表示
給湯が燃焼しているときに表示します。

時刻表示
現在時刻・予約時刻を表示します。

エラーコード表示
器具に異常があったとき、エラーコード表示に変わります。

水位設定表示
設定した水位を表示します。
風呂リモコンの「水位設定スイッチ」を押すと表示が変わります。

自動表示
メインリモコン・風呂リモコンの「自動スイッチ」を押すと表示します。

追いだき表示
風呂リモコンの「追いだきスイッチ」を押すと表示します。

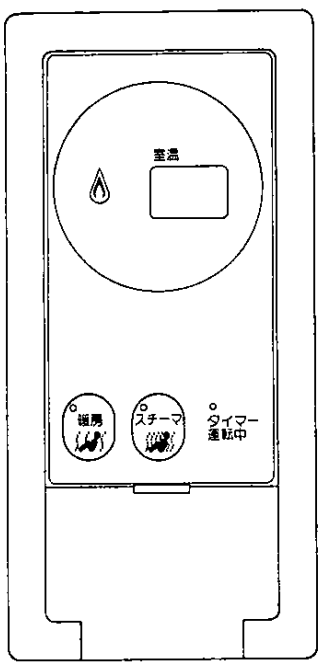
追いだき燃焼表示
風呂を沸かしているときに表示します。

風呂温度表示
風呂側の温度設定を表示します。

上記画面表示は説明のため、全部表示したものです。実際の運転のときは該当部分が表示されます。

給湯温度、風呂温度表示は、温度設定の目安です。

●スチーマメインリモコン



燃焼ランプ
スチーマを使用しているときに点灯します。

暖房運転ランプ
暖房運転時に点灯します。

暖房運転スイッチ
暖房運転するときに「入」にします。(P.24)

室温表示部
浴室の現在室温を表示します。(10℃～60℃)

タイマー運転ランプ
タイマー運転時に点灯します。

スチーマ運転ランプ
スチーマ運転時に点灯します。

スチーマ運転スイッチ
スチーマ運転するときに「入」にします。(P.23)

●スチーマ浴室リモコン

燃焼ランプ
スチーマを使用しているときに点灯します。

スチーマ運転ランプ
スチーマ運転時に点灯します。

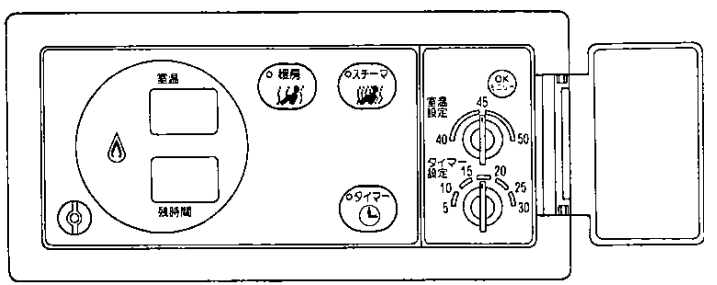
OKモニタースイッチ
過去のエラー表示を確認するスイッチです。(P.32)

浴室温度センサー
浴室内の温度を感知します。

室温表示
浴室の現在室温を表示します。(10℃～60℃)

スチーマ運転スイッチ
スチーマ運転するときに「入」にします。(P.23)

室温設定つまみ
スチーマ運転時に室温を設定するつまみです。



残時間表示
タイマー運転時に残時間を表示します。(P.25)

エラーコード表示
器具に異常があったとき、エラーコード表示に変わります。

暖房運転スイッチ
暖房運転するときに「入」にします。(P.24)

タイマー運転スイッチ
タイマー運転をセットするスイッチです。(P.25)

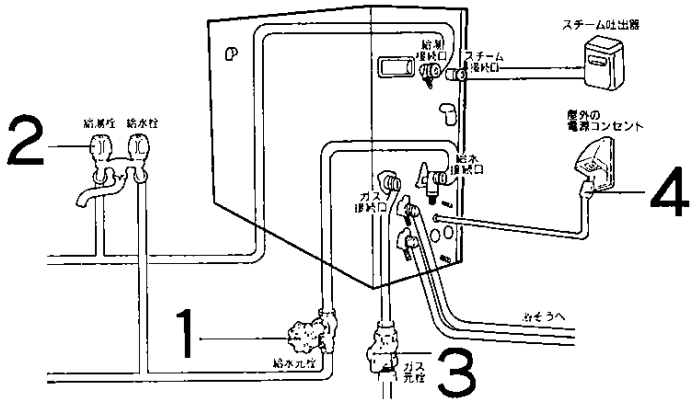
タイマー設定つまみ
タイマー運転時に時間を設定するつまみです。(P.25)

暖房運転ランプ
暖房運転時に点灯します。

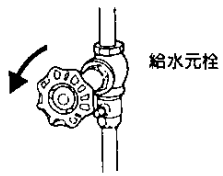
タイマー運転ランプ
タイマー運転時に点灯します。

初めてお使いいただくときに

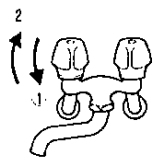
準備手順



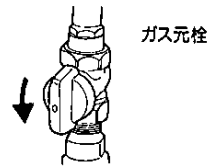
1 給水元栓を全開にする



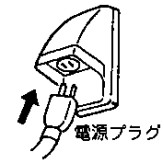
2 給湯栓を開け、
水の出ることを確認し
閉める



3 ガス元栓を全開にする



4 電源プラグを屋外の
コンセントに差し込む



5 ポンプへ呼び水をする

この器具はポンプへ呼び水を自動的に行ないます。

初めてお使いになるときおよび、凍結予防のため水抜きを行なった後は必ず、浴そうに水・湯がない状態で自動運転(17～18ページ参照)を行なってください。

6 時刻設定をする

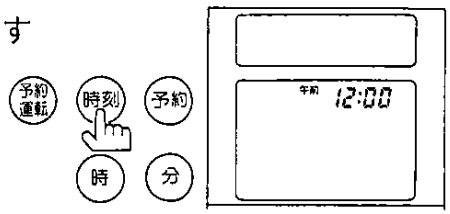
15ページに従って時刻を合わせます。

使用方法 現在時刻の合わせかた

- メインリモコンのふたを開けて行なってください。
- 電源が「入」の状態で「0 00」を点滅します。
- 運転スイッチ「入」「切」に関係なくセットできます。

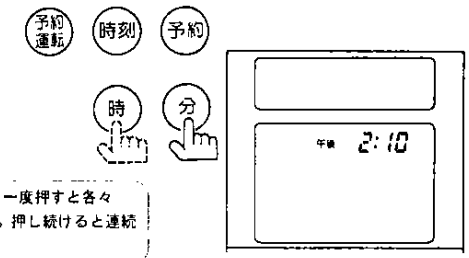
1 時刻スイッチを押す

「午前 12:00」が点滅します。



2 現在時刻を合わす

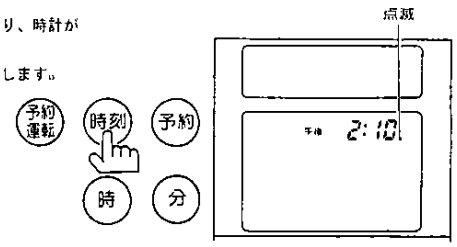
（例；現在時刻が、午後2時10分の場合）
「時」スイッチを押して「午後 2:00」にします。次に分スイッチを押して「午後 2:10」にします。



- 「時」、「分」スイッチは、一度押すと各々1時間、1分ずつ変わります。押し続けると連続して表示がかわります。

3 時刻スイッチを押す

- 時刻表示が点滅から点灯に変わり、時計が動きはじめます。
- 時刻表示の右下の「・」が点滅します。



使用方法 給湯のしかた

1 運転スイッチを押す

［風呂リモコン・メインリモコンのどちらかの運転スイッチを押す。］

- 給湯温度は、前回設定の温度を表示します。
- 前回設定の温度が「75」の場合は、安全のため「42」が点灯します。

温度切替スイッチを押して

2 温度を調節する

- 必ず 優先 表示を確認してから温度の調節をします。優先 表示がされていないリモコンでは温度調節はできません。

〈メインリモコンで調節する場合〉

- お好みの温度に調節します。

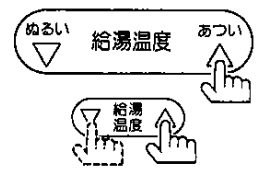
［優先 表示が消えている時は、風呂リモコンの優先スイッチを押し、メインリモコンへ優先をもどします。］

〈風呂リモコンで調節する場合〉

- お好みの温度に調節します。

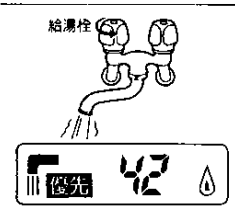
［優先 表示が消えているときは風呂リモコンの優先スイッチを押します。］

- 温度切替は約38～約47℃の間及び約60℃、約75℃で調節できます。
- 温度切替スイッチを押しつづけると、連続的に変わります。「60」から「75」は押しなおします。
- 温度設定が「75」の場合、ブザーでお知らせします。



3 給湯栓を開ける

- 給湯側の「」「」が表示し、お湯が出ます。
- エラーコード「11」が表示している場合は、一度給湯栓を閉め、しばらく待った後、開栓します。



4 給湯栓を閉める

- バーナが消火し、給湯側の「」「」が消えます。

燃焼用送風機は、バーナ消火後約5分で停止します。

ご注意

- 自動お湯はり運転中に給湯を使用すると、温度は自動お湯はりで設定した温度になります。
- 停電または、電源プラグを抜き差ししたあとに運転スイッチを入れると温度設定は「42」になります。

使用方法 自動運転のしかた

- 自動運転の機能・原理は19ページを参照してください。
- 浴そうの排水栓を閉じてください。
- 浴そうにフタをしてください。

1 運転スイッチを押す

［風呂リモコン・メインリモコンのどちらかの運転スイッチを押す。］

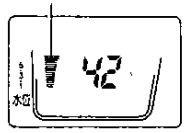
- 給湯、風呂の温度表示は、前回設定の温度を表示します。
- 給湯側のお湯はり温度の表示は、自動スイッチを押した後表示します。

風呂リモコンで

2 お湯はり水位を設定する

- 水位スイッチを押し、適切な湯量になる数字にバー表示を合わせます。
  ［バー表示は水位スイッチを押すと上がっていき、5までくると下がっていきます。］
- 右表の数字で一度運転し、水位が高いときは小さな数字に、水位が低いときは大きな数字に合わせて、翌日試してください。

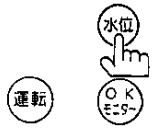
バー表示



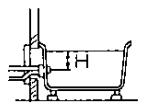
水位設定 目盛	H寸法(cm) 目安
5	約40
・	約33
3	約27
・	約20
1	約14

ご注意

- 洋風バスなどの浅い浴そうの場合、水位設定を高めにすると、お湯があふれることがあります。
- 浴そうの形状や施工状態によりお湯はり水位は多少変化します。



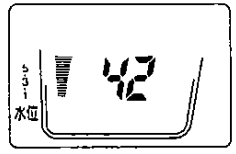
（一般的な設置例）



風呂リモコンで

3 ふろ温度を設定する

・適切な温度に合わせます。
約35℃～約50℃の間で調節できます。



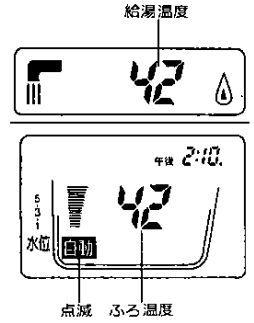
点　火

4 自動スイッチを押す

- 「自動」が点滅表示し、自動運転に入ります。
- エラーコード「11」が表示する場合、自動スイッチを「切」にし、再度「入」にします。

ご注意

- 給湯使用中に、「自動スイッチ」を「入」にしたとき自動運転にならない場合があります。
  この場合給湯栓を閉めますと、自動運転を開始します。
- 自動運転中に、「🔥」「🚿」が表示したり消えたりしますが異常ではありません。



消　火

自動で使用の場合、設定した水位・温度になると自動的に消火します。
（「自動」表示の点滅が点灯に変わり、4時間、保温・たし湯を続けます。）
途中で消火したい場合または自動運転を止める場合は次の操作をします。

5 自動スイッチを押す

「自動」表示の点滅または点灯が消えます。

ご注意

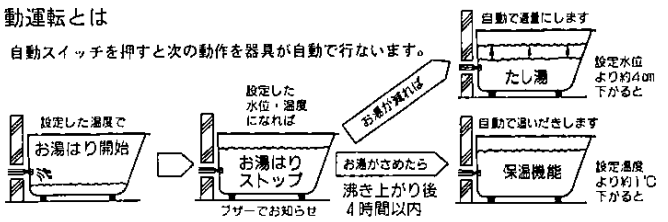
- 自動運転中は給湯温度の表示が、ふろ温度の表示と等しくなることがありますが異常ではありません。
  またこの時、給湯を使用しますと、ふろ温度表示の湯温になります。
- 自動運転中に給湯同時使用の場合は、お湯はり時間は長くなります。
- 自動運転中給湯温度の調節はできません。
  （給湯温度を調節する場合自動スイッチを「切」にしてください。）
- 入浴時には、必ず浴そうの湯をかきまぜて湯温を確かめてください。
- 停電時や、電源プラグを抜かれたときは、浴そうに水、湯がない状態で自動運転から行なってください。（正確な水位にするため）
- 自動運転中にオーバーフローより、水が出ることがありますが異常ではありません。
- 自動運転中や、給湯使用中、空気を吸い込む音がありますが異常ではありません。
- 自動運転中や追いだき時、浴そうの循環口より空気が出ることがありますが異常ではありません。

使用方法 自動運転のしかた

知っておきたいこと

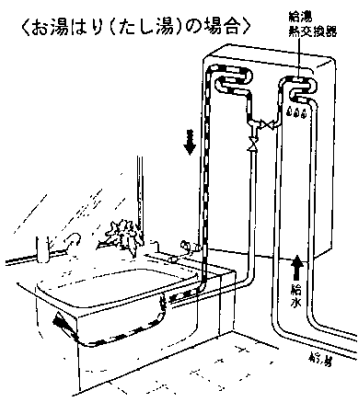
自動運転とは

自動スイッチを押すと次の動作を器具が自動で行ないます。



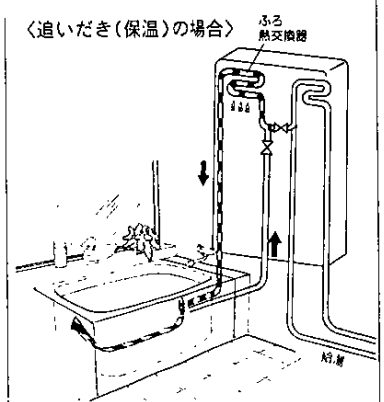
自動運転の原理

〈お湯はり(たし湯)の場合〉



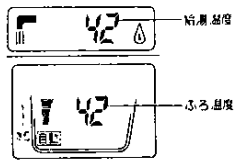
給水された水が「給湯熱交換器」を通り湯となって浴そうへお湯はりします。

〈追いだき(保温)の場合〉



浴そうから戻り湯が「ふろ熱交換器」を通り、再び浴そうへ高温の湯を循環させます。

- お湯はり時は、「給湯熱交換器」が働くため、リモコンの「給湯温度」は「ふろ温度」に等しくなります。



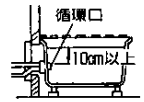
保温・たし湯運転中は

- 湯温検知は10分毎にポンプで循環して行ないます。
- 自動運転は、設定した水位・温度に沸き上がってから4時間後に、自動的に停止します。（自動表示が消えます。）

使用方法 追いだきのしかた

入浴時など湯がぬるくなったときの追いだきに使用します。

- 浴そうの循環口より10cm以上水が入っていることを確認してから操作してください。



1 運転スイッチを押す

［風呂リモコン・メインリモコンのどちらかの運転スイッチを押す。］

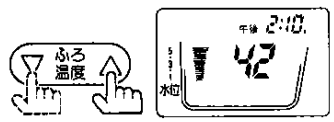
- ふろ温度は、前回設定の温度を表示します。

風呂リモコンで

2 ふろ温度を設定する

約35℃～約50℃の間で調節できます。

追いだきは「ふろ温度」＋2℃まで沸き上げると自動的に停止します。

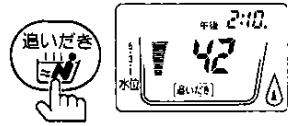


点　火

3 追いだきスイッチを押す

追いだき が点滅表示し、ふろ側の「🔥」が表示し追いだきをはじめます。

エラーコード「112」が表示する場合追いだきスイッチを「切」にし、再度「入」にします。



消　火

途中で消火したい場合

4 追いだきスイッチを押す

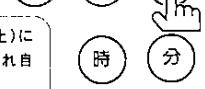
追いだき 、ふろ側の「🔥」表示が消えます。

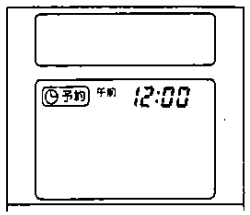
使用方法 風呂予約時刻の合わせかた

- メインリモコンのふたを開けて行なってください。
- 運転スイッチ「入」「切」に関係なくセットできます。
- 現在時刻を合わせていないと、予約時刻はセットできません。

1 予約スイッチを押す

「午前 12:00 」と「予約」が点滅します。

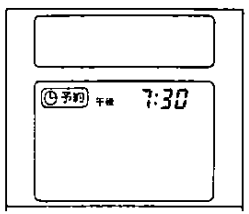




- 予約時刻をそのまま(約15秒以上)にしておきますと予約はセットされ自動的に現在時刻にもどります。

2 予約時刻を合わす

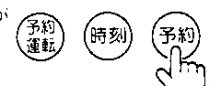
(例；予約時刻が、午後7時30分の場合)
「時」スイッチを押して「午後 7:00 」にします。次に分スイッチを押して「午後 7:30 」にします。

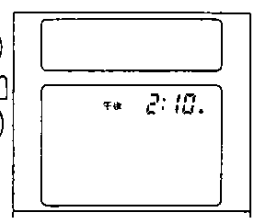


- 「時」、「分」スイッチは、一度押すと各々1時間、1分ずつ変わります。押し続けると連続して表示がかわります。

3 予約スイッチを押す

- 現在時刻に変わると同時に予約がセットされます。





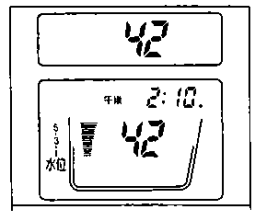
- 時刻が点滅したままですと、予約時刻はセットできていません。

使用方法 風呂予約運転のしかた

予約前に次のことを確認してください。
- 現在時刻を合わせてありますか。
- 予約時刻を合わせてありますか。

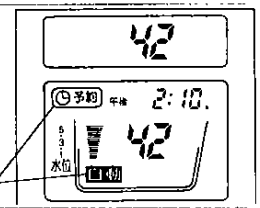
1 運転スイッチを押す

[風呂リモコン・メインリモコンのどちらかの運転スイッチを押す。]



2 予約運転スイッチを押す

- 「予約」が表示します。
- 予約時刻近くになると運転を始め「予約」と「自動」が点滅します。

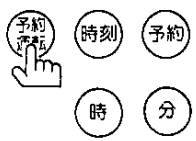


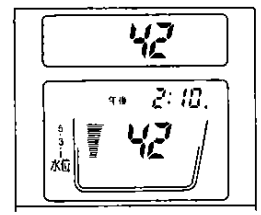
予約時刻近くになると点滅

- 予約運転スイッチを押すと、予約時刻に「お湯はり」または「沸き上げ」がほぼ完了し、予約時刻までは保温を行ないます。
- 途中で取り消す場合、次の操作をしてください。

3 予約運転スイッチを押す

- 「予約」が消えます。





予約運転とは
- 予約時刻に「お湯はり」または「沸き上げ」がほぼ完了することをいいます。
- 予約時刻になると、ブザーでお知らせします。
- 予約運転設定中（器具が動きだすまでの間）は「自動」スイッチ、「追いだき」スイッチを押してもスイッチは入りません。
- 予約運転設定中でも「給湯」は使用できます。
  このような場合、「お湯はり」または「沸き上げ」時刻が遅くなる場合があります。
- 予約時刻を忘れた場合は、予約スイッチを押すと確認できます。

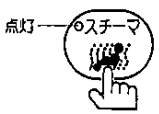
使用方法 スチーム浴のしかた

点　火

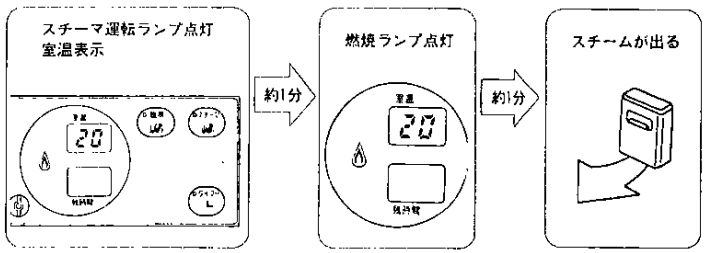
1 スチーマ運転スイッチを押す

浴室リモコン・メインリモコンのどちらかのスチーマ運転スイッチを押す。

- スチーマ運転ランプが点灯し、しばらくするとスチームが出ます。（約2分後）



スチーム出しの動作



●浴室温度が約45℃になるまでの目安

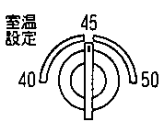
浴室の種類(1坪)	冬	春・秋	夏
ユニットバス	15～20分	10～15分	5～15分
タイル浴室	20～25分	15～20分	10～15分

- スチーマ運転スイッチを押したままにしておくと、約90分後に自動的にスチームは止まります。
  また30分運転1分停止をくり返します。

浴室リモコンで

2 室温を設定する

- 室温設定つまみをまわし、お好みの室温に合わせます。
  約40℃～約50℃の間で調節できます。

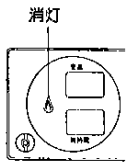


消　火

3 スチーマ運転スイッチを押す

浴室リモコン・メインリモコン(スチーマ用)のどちらかのスチーマ運転スイッチを押す。

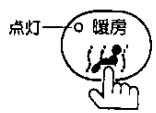
- スチーマ運転ランプと燃焼ランプが消灯し、室温表示が消えます。



暖房運転のしかた

- 暖房運転とは、寒い季節に浴室をあらかじめ暖めておく機能です。

暖房運転スイッチを押す



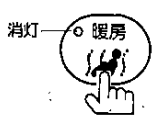
浴室リモコン・メインリモコン(スチーマ用)のどちらかの暖房運転スイッチを押す。

- 暖房運転ランプが点灯し、しばらくするとスチームが出ます。
  室温が約37℃に達すると、スチームの量を自動的に調節し室温を約37℃に保ちます。
- 暖房運転スイッチを押したままにしておくと、約4時間後自動的にスチームは止まります。

●浴室温度が約37℃になるまでの目安

浴室の種類(1坪)	冬
ユニットバス	6～11分
タイル浴室	12～17分

暖房運転を解除するときは



- 暖房運転スイッチをもう一度押してください。暖房運転ランプが消灯し、スチームが止まります。
- 暖房運転中スチーマ運転スイッチを押すとスチーマ運転に切替わり暖房運転ランプは消灯します。

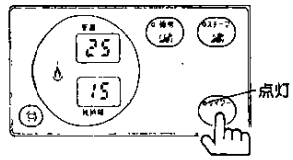
使用方法 スチーム浴のしかた

タイマー運転のしかた

●タイマー運転とは、設定時間になると自動的にスチームを停止する機能です。

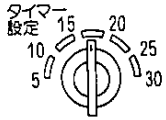
1 タイマー運転スイッチを押す

●タイマー運転ランプが点灯し、設定時間（残時間）が表示され、タイマー運転になります。



浴室リモコンで

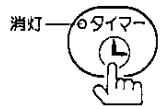
2 タイマーを設定する



●タイマー設定つまみをまわし、お好みの時間に合わせます。
5分から30分の間で1分きざみに設定できます。
使用中に設定時間を変更したい場合は、タイマー設定つまみで調節してください。
（なお、設定時間を変更し、タイマー運転が延べ30分以上になると途中で1分間止まります。）

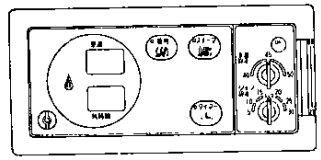
タイマー運転を解除するときは

●タイマー運転スイッチをもう一度押してください。タイマー運転ランプと残時間表示が消灯し解除されます。

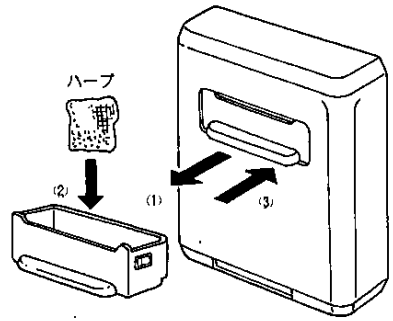


使用方法 ハーブ浴のしかた

すべてのスイッチを「切」にしてください。



1 ハーブを入れる



2 点　火

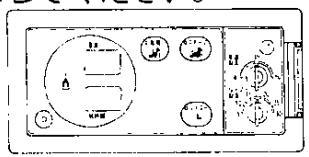
P23の「スチーム浴のしかた」に従って操作してください。

ハーブは、西洋を中心に良い香りがするものや、健康に良いと言われているものがあり、いろいろな用途に使われている植物です。

ご注意 ■ハーブを入れるときは
必ずすべてのスイッチを「切」にして！（スチームが出ている状態では危険です。）
■ハーブ使用後は
スチームを止め、袋ごと捨てる！（そのままにしておくと腐ります。）
■ハーブについての追加注文など、詳しくは別添の「スチームバスと入浴法」を参照してください。

使用方法 フォグシャワーのしかた

すべてのスイッチを「切」にしてください。



〈サーモスタットタイプの場合〉
①湯温調節つまみをまわし、水側にする
②切替ハンドルをシャワー側へまわす
③シャワーヘッドのリングをまわし
フォグシャワーにする

1 フォグシャワーの水栓を開く

※別売のシャワーヘッド((4)－38－027型)を取り付けると使用できます。

凍結予防方法

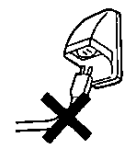
凍結すると器具や給湯配管が破損して、水漏れや、器具が異常をおこす危険性があります。
凍結予防ヒータ(次頁参照)が内蔵されていますが、冷え込みが厳しいときは「方法2」または「方法3」で凍結予防を行なってください。

方法1

給湯側・スチーム側

凍結予防ヒータによる自動保温(気温が0℃～－15℃無風の場合)

- 外気温が0℃近くになると運転スイッチの「入・切」に関係なくヒータのスイッチが入り保温します。



- 電源プラグは絶対抜かないでください。抜くとヒータが作動しません。

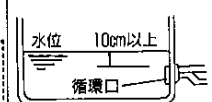
風呂側

ポンプ自動運転

- 外気温が0℃近くになるとサーモスタットの働きで自動的にポンプを動作させ、浴そうの水を循環させて凍結を防ぎます。

ご注意

凍結防止としてポンプを動作させますので、寒冷時は浴そうに必ず水を張った状態にしてください。

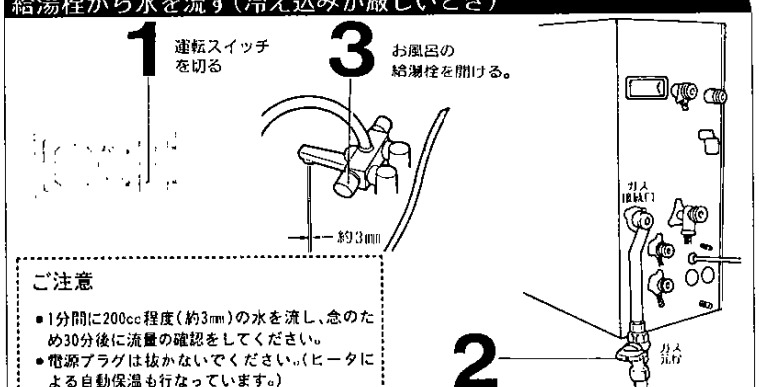


- 水位が循環口より10cm以上入っていることを確認。

方法2

給湯側

給湯栓から水を流す(冷え込みが厳しいとき)



ご注意

- 1分間に200cc程度(約3mm)の水を流し、念のため30分後に流量の確認をしてください。
- 電源プラグは抜かないでください。(ヒータによる自動保温も行なっています。)

風呂側・スチーム側

方法1と同じです。

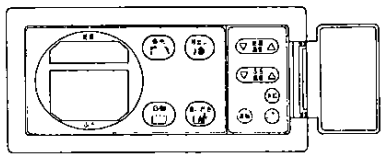
凍結予防方法

方法3 給湯側・風呂側

水抜きをする(長期不在のとき)

2 運転スイッチを切る。

8 運転スイッチを「入」にする。



9 追いだきスイッチを押す。
浴そうの循環口より水が出ることを確認し、3分程度そのままにする。

6 給湯栓を開ける。

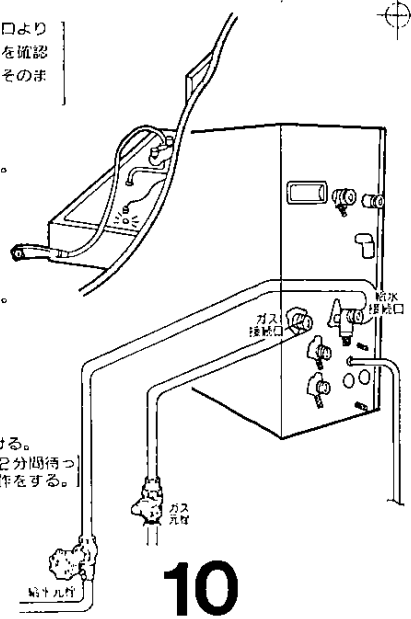
7 シャワーを床面より下げる。

1 浴そうの水を排水する。

5 水抜き栓を開ける。
そのままで約2分間待ってから次の操作をする。

3 ガス元栓を閉める。

4 給水元栓を閉める。

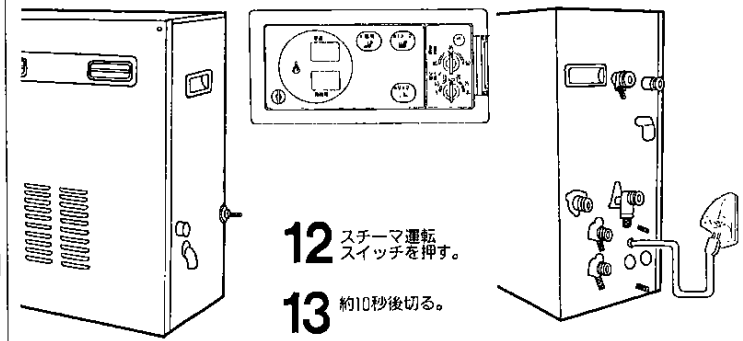


10 水抜き栓を開ける。(3箇所)

方法3 スチーマ側

水抜きをする(長期不在のとき)

前ページの水抜き後、行ないます。



12 スチーマ運転スイッチを押す。

13 約10秒後切る。

11 水抜き栓を開ける。

14 電源プラグを抜く。

水抜き後の使用方法

次の順序で行なってください。

①水抜き栓を閉める。

↓

②13ページの「初めてお使いいただくときに」に従ってお使いください。

凍結して水が出ない場合

①リモコンの運転スイッチを切る。

↓

②ガス元栓を閉める。

↓

③給水元栓を閉める。

↓

④給湯栓を開ける。

↓

⑤水が出るまで待つ。(ときどき給水元栓を開け確認する。)

↓

⑥凍結がとけたあと水漏れがないか確認し使用を開始する。

配管・バルブの凍結防止

「方法3」または「凍結予防ヒータによる自動保温」では、配管・バルブ類の凍結防止はできませんのでご注意ください。

ご注意

- 凍結したまま使用しないでください。
- 凍結による修理は有料です。

故障かな？と思ったら

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちに使用を中止され、十分な点検をしてください。

（●＝主原因、△＝原因）

原因	現象：温度表示が点灯しない	「🔥」表示が点灯しない	（メイン）リモコン優先表示が点灯しない	給湯栓を開けても湯が出ない	使用中に水になる	高温の湯が出ない	低温の湯が出ない	使用中に湯温が極端に変動する	自動スイッチが「入」にしても、自動運転しない	風呂の沸きがおそい	スチームが出ない	寒い日に排気口から湯気が出る	処置方法
電源プラグがはずれている	●	●	●	●					●		●	異常ではありません	プラグをコンセントに差し込む
ガス元栓の開き不十分		△		△	△	●		△	△	△	△		ガス元栓を全開にする
給水元栓の開き不十分		△		△	△		△	△	△		△		給水元栓を全開にする
配管内に空気が残っている		●		△	△				△		△		点火操作を繰り返す
水ストレーナの詰まり		△		△	△		△	△	△				詰まりを除去する
断水している		△		●					△		●		給湯使用をいったん中止する
凍結している		△		●					△		●		解凍するまで使用を中止する
停電	●	●	●	●	●				●	●	●		再通電するまで待つ
風呂リモコンの優先スイッチの「入」「切」が、適切でない			●			●	●						風呂リモコンの優先スイッチの「入」「切」を正しく戻し、温度切替スイッチで調節する

処置方法や原因のわからないときは、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガス支社へご連絡ください。

ＯＫモニターについて

この器具には、不具合が生じたときにその原因をＯＫモニターで知らせる機能があります。
運転スイッチを「切」にしＯＫモニタースイッチを押すと、過去のエラーコードを呼び出せます。
下表のＯＫモニターの表示に応じた処置を行なってください。

〈給湯・風呂側〉

表示	原因	処置方法
001	給湯を連続90分以上運転したためです。	給湯栓を「閉」にして再度「開」にしてください。
002	風呂の沸き上げを連続90分以上運転したためです。	追いだきスイッチ（または自動スイッチ）を押しなおしてください。
432	浴そうからお湯があふれているためです。	自動スイッチを「切」にして水位設定を低くして再度「入」にしてください。
032	浴そうの栓をしていないためです。	自動スイッチを「切」にして浴そうの水を抜き、栓をしっかり閉めて再度「入」にしてください。
002	浴そうに湯（水）があるとき停電したためです。	
111	給湯側の燃焼が失火したためです。	ガス元栓が全開であることを確認後、給湯栓を「閉」にして再度「開」にしてください。
721	給湯側の回路に異常がおきたためです。	
112	風呂側の燃焼が失火したためです。	ガス元栓が全開であることを確認後、追いだきスイッチ（または自動スイッチ）を押しなおしてください。
722	風呂側の回路に異常がおきたためです。	

上記以外の表示がでる場合は、運転スイッチを「切」にして再操作してください。

再操作しても同じ表示がでる場合は、電源プラグを抜かないで、お買い上げの販売店へ連絡。

〈スチーマ側〉

表示	原因	処置方法
00	暖房運転を240分以上またはスチーマ運転を90分以上したためです。	暖房運転スイッチまたはスチーマ運転スイッチを押し直してください。
56 57	スチーマに給水されないためです。	給水元栓が開いていることを確認後、暖房運転スイッチ、スチーマ運転スイッチまたはタイマー運転スイッチを押し直してください。
11	スチーマの点火エラーが生じたためです。	ガス元栓が全開であることを確認後、暖房運転スイッチ、スチーマ運転スイッチまたはタイマー運転スイッチを押し直してください。
72	スチーマ側の回路に異常がおきたためです。	

上記以外の表示がでる場合は、暖房運転スイッチ、スチーマ運転スイッチまたはタイマー運転スイッチを再操作してください。

再操作しても同じ表示がでる場合は、電源プラグをぬかないで、お買い上げの販売店へ連絡。

故障かな？と思ったら

異常時には、安全装置が働きます

- バーナの炎が消えた場合ガスが止まります。……立消え安全装置
- 過電流が流れた場合運転を停止します。……電流ヒューズ
- 空だきした場合ガスが止まります。……空だき安全装置
- 器具内の水圧が異常に上昇した場合器具の損傷を防止します。……過圧防止安全装置
- 器具の温度が異常に上昇した場合ガスを停止します。……過熱防止装置
- 電気回路に漏電が生じた場合電気を停止します。……漏電安全装置
- 湯温が異常に上昇した場合ガスを停止します。……残火安全装置
- 給水がストップした場合にガスが止まります。……空だき防止装置
- 器具内のスチーム圧が異常に上昇し場合器具の破損を防止します。……圧力安全弁

上記の安全装置が働いた場合
運転スイッチを「切」にし、ガス元栓・給湯元栓を閉め、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガス支社に連絡してください。

次のような場合は故障ではありません

現　象	説　明
使用途中に一旦スチームが止まる。	長時間使用の場合、30分運転1分停止を繰り返します。
消火後も器具の運転音がする。	器具内の排水動作の運転音で異常ではありません。
寒い日に器具の排気口より白い湯気が出る。	器具から発生する水蒸気で異常ではありません。
使用中に排水口より水が出る。(冬場は蒸気が出る。)	熱交換器の冷却用の水であり異常ではありません。

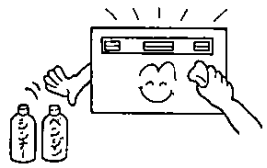
点検・お手入れ

「点検・お手入れ」は、必ず給水元栓とガス元栓を閉め、電源プラグを抜いて、器具が冷えてから行なってください。

お手入れの方法

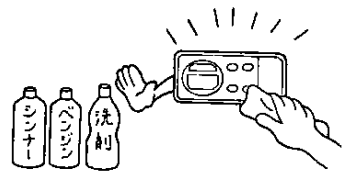
■本体が汚れたときは？

布または、スポンジに台所用洗剤(中性洗剤)をつけて、ふきとる。



■リモコンが汚れたときは？

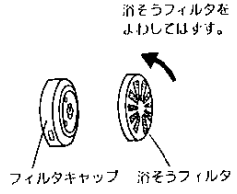
水をつけた布をかたく絞り、軽くふきとる。



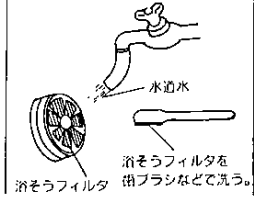
■浴そうフィルタの掃除をしてください。

①浴そうフィルタにはゴミや湯あか等が付着し、そのままにしておくと目詰まりを起こし器具の異常の原因になります。
②浴そうフィルタの掃除はつぎの要領で定期的に行なってください。

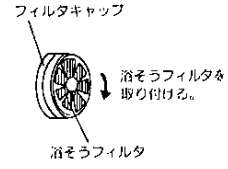
1 浴そうフィルタを取り外す。



2 浴そうフィルタの掃除をする。



3 浴そうフィルタをもとのように取り付ける。

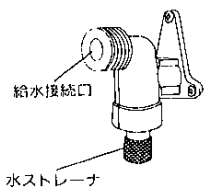


点検・お手入れ

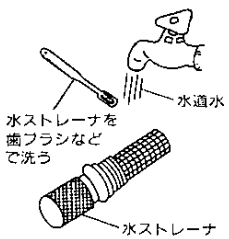
■給水側水ストレーナのお手入れをしてください。

つぎの要領で定期的に行なってください。

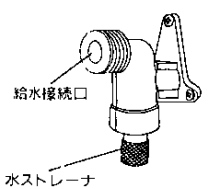
1 給水接続口にある水ストレーナをはずす



2 水ストレーナを洗う



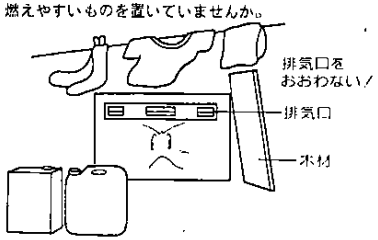
3 水ストレーナをもとにもどす



点検の方法

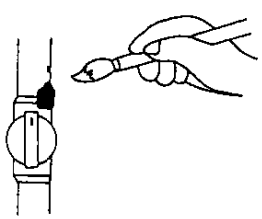
■器具の異常音は？
■外観に異常は見られませんか？
■器具の周囲は？

燃えやすいものを置いていませんか。

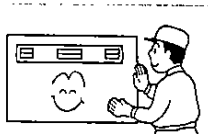


■本体・配管からの水漏れ・ガス漏れは？

ガス漏れは、配管接続部に石けん水などをつけて調べる。



定期点検のおすすめ



- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年1回程度の定期点検をおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ふろがまが古くなると熱交換器やバーナにサビやスス、ほこり等がつまったりします。また取り付け場所によりバーナに「くも」が巣をはることがあります。このような場合不完全燃焼を起こすことがあり、ときどきご使用中に異常(異常音、排気に不快な臭い、目にしみる等)がないか確認してください。異常に気づかれた場合は、使用を中止し、ガスの元栓を閉めてお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガス支社へ連絡ください。

仕　様

項目＼品種		ガス風呂給湯器・ガススチーマ	
ガスの種類		都市ガス13A用	LPガス用
寸法(mm)	高さ	630	
	幅	917	
	奥行き	280	
重量	(kg)	61.5	
最大ガス消費量	風呂釜	12,000kcal/h	1.0(kg/h)
	給湯器	45,000kcal/h	3.5l(kg/h)
	スチーマ	11,000kcal/h	0.95(kg/h)
	同時使用	63,000kcal/h	5.0(kg/h)
最大ガス流量	風呂釜	1.2㎥/h	1.0(kg/h)
	給湯器	4.3㎥/h	3.5l(kg/h)
	スチーマ	1.1㎥/h	0.95(kg/h)
	同時使用	6.0㎥/h	5.0(kg/h)
出湯能力(l/min)(能力大)(水圧1kgf/cm²)	水温+25℃上昇	(24.0)	
	水温+40℃上昇	15.0	
消費電力		60Hz485W(最大燃焼時245W+凍結予防ヒータ240W) 運転スイッチ「切」の状態:22W	
点火方式		連続放電点火方式	
熱交換器	方式	3缶3水路	
	材質	風呂釜：銅製・給湯器：銅製・スチーマ：銅製	
最低作動水圧(kg/cm²)		0.15	
最低作動水量(l/min)		2.0	
出湯能力(給湯器)		24号~2.5号	
操作方法		リモコンによる操作	
給湯器能力切替え		無段階	
接続	ガス	20A(R¾)	15A(R½)
	追いだき	15A(R½)	
	給水	20A(R¾)	
	給湯	20A(R¾)	
	スチーム	15A(R½)	
	電気	器具本体電源AC100V	
本体と各リモコンとの接続		24V低圧用2心ケーブル(別売)	
安全装置		立消え安全装置・空だき安全装置(風呂)・残火安全装置(給湯) 空だき安全装置(スチーマ)・過熱防止装置・過圧防止安全装置 誘導雷保護装置・漏電安全装置・圧力安全弁・凍結予防ヒータ・電流ヒューズ	
凍結予防装置		凍結予防ヒータ(給湯)　ポンプ循環(風呂)	
付属品		給湯風呂用メインリモコン(一式)・スチーマ用メインリモコン(一式) 風呂リモコン(一式)・浴室リモコン(一式)・ソルダー継ぎ手パイプ(一式) 固定金具(一式)・スチーム吐出器・ハーブサンプル	
別売部品		風呂アダプター(ロー付タイプショートL型)……(4)36－931型 風呂アダプター(フレキ接続ショートL型)……(4)36－932型 厚肉浴槽用風呂アダプター……(4)36－934型 厚壁用スリーブ……(4)36－050型 サブリモコン……(4)36－938型 シャワーヘッド……(4)38－027型	
日水協認可登録番号		A－5259	

●器具本体より第3種接地工事(アース)が必要です。

保管とアフターサービス

●長期間使用しない場合

- 長期間使用しない場合は次の操作をしてください。
  (1)ガス元栓を閉じる。
  (2)給水元栓を閉じる。
  (3)器具の水抜きを行なう。（水抜き方法は29～30ページを参照してください。）
  (4)電源プラグを抜く。

●アフターサービスのお申し込み

- 31～33ページの「故障かな？と思ったら」の項を見てもう一度確認してください。
- 確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買い上げの販売店または、もよりの大阪ガス支社にご連絡ください。なおご連絡いただくときは次のことをお知らせください。
  (1)品名……ガス風呂給湯器・ガススチーマ
  (2)品番……正面左下部に貼付してあります。
  (3)故障・異常の現象……（できるだけ詳しく）
  (4)お客様名・住所・電話番号・道順

(N)31-015(U)
大阪ガス株式会社 03

●転宅される場合

- ガスの種類の異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認のうえ、お買い上げの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

●保証・補修について

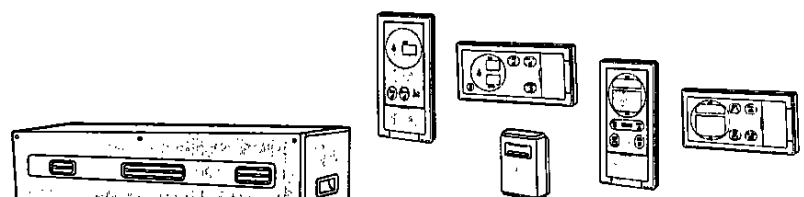
- 保証期間中には……
  保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。
  保証書を紛失されますと、保証期間中であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。
- 保証期間経過後の故障修理について
  お買い上げの販売店、またはもよりの大阪ガス支社にご相談ください。
  修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
  この製品の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打切後７年間です。

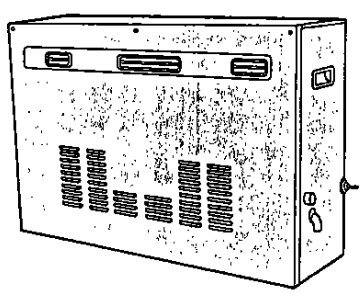
メ モ 欄

ガス風呂給湯機・ガススチーマ

31−015型

型式 GX−J241RX





＊工事をされる方へのお願い
この器具を正しく安全にご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって、工事を行なってください。

工事説明書

もくじ

開こん……1
設置前のご注意……3
器具の設置……9
給水・給湯配管工事……10
自動お湯はり・ふろ追いだき配管工事……12
ガス配管工事……19
スチーム配管工事……20
電気配線工事……27
設置工事後の点検確認……39
試点火および試運転……40
仕様……41
外形寸法図……42

大阪ガス

開こん

• 付属部品の確認をしてください。

区分	部品名	個数	形　状
風呂リモコン用	風呂リモコン	1	
	空気抜きパイプ	1	
	化粧カバー	1	
	ナット	1	
	ワッシャ(小)入木ねじ	2	
	PYプラグ	2	
	チューブ	1	
	ケッソクバンド	5	
固定金具用	PYプラグ	2	
	ワッシャ(大)入木ねじ	2	
	固定金具	1	

区分	部品名	個数	形　状
メインリモコン用(給湯・風呂)	メインリモコン	1	
	木ねじ	2	
	PYプラグ	2	
	小ねじ	2	
配管接続用　スチーマ浴室リモコン用	ソルダー継手パイプ	2	
	パッキン	2	
	スチーマ浴室リモコン	1	
	ワッシャ(小)入木ねじ	2	
	PYプラグ	2	

区分	部品名	個数	形　状
スチーマメインリモコン用	スチーマメインリモコン	1	
	木ねじ	2	
	PYプラグ	2	
	小ねじ	2	

区分	部品名	個数	形　状
その他	スチーム吐出器	1	
	ハーブサンプル	1	
	Y端子	14	
	メガネ端子	3	
	取扱説明書	1	
	工事説明書	1	
	保証書	1	

〔別梱包部品〕
- 風呂アダプター(ロー付タイプショート)
  (4)36-930型

〔別売部品〕
- 風呂アダプター(ロー付タイプショートL型)……(4)36－931型
- 風呂アダプター(フレキ接続ショートL型)……(4)36－932型
- リモコン接続用ケーブル線(2心線)……(4)38－132型
- 厚肉浴槽用風呂アダプター……(4)36－934型
- 厚壁用スリーブ……(4)36－050型
- サブリモコン……(4)36－938型
- シャワーヘッド……(4)38－027型
- リモコン接続用ケーブル線(2心線)……(4)38－132型

〔工事材料〕
- スチーム配管用保温材……03－01－07，01
- スチーム配管用保温材付軟質銅管……01－02－10，01
- スチーム配管用保温材付硬質銅管……01－02－10，02
- プラグ付(100V3心アース付)電源コード……09－03－44(1)～(2)
- 漏れ検査治具……05－06－03，07

〔補修用部品〕
- プラグ付(100V2心用)電源コード……(4)－38－100－0201～0204

設置前のご注意

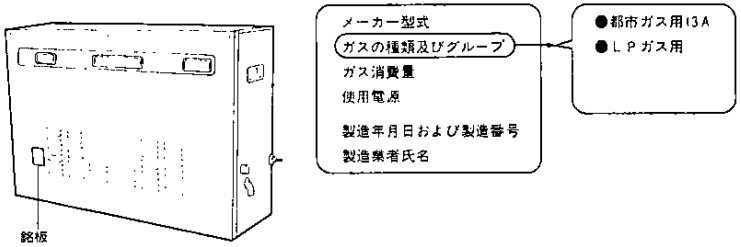
■ 設置する器具の確認

(1)使用ガスに関する事項

設置する器具が使用するガス（ガスグループ）に適合していることを確認してください。

(2)使用電源に関する事項

器体（銘板）に表示してある電源（電圧・周波数）以外の電源では使用しないでください。



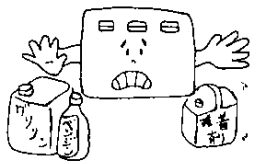
(3)ソーラへの接続について

- この器具は、ソーラ（太陽熱温水）システムに接続できません。

(4)この器具はスチームバス浴室として設計、施工された浴室以外では使用できません。

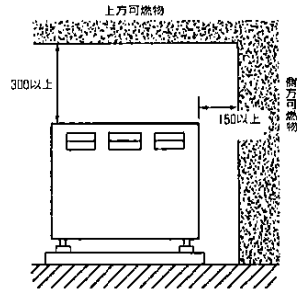
■ 設置場所の確認

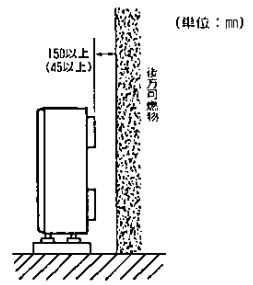
設置場所を決められるときは、次の事項をよく確認してから決めてください。



(1)火災予防について

- ガソリン、ベンジン、接着剤など引火性の危険物を扱う場所には設置しないでください。
- 洗濯の物干し場など燃えやすいもののあるところには設置しないでください。
- 器具を設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置してください。

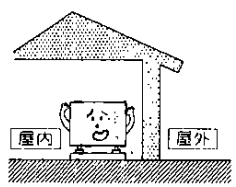




（ ）内は周囲の壁に防熱板を取り付けた場合の寸法です。

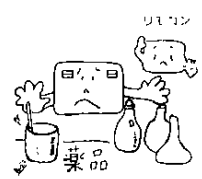
(2)給排気について

- この器具は屋外用です。屋内への設置はしないでください。
- 給排気が十分できる場所（開放スペース）に設置してください。（詳しくは4~7ページ参照）

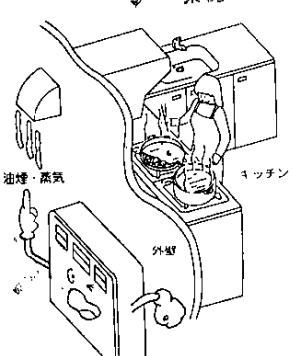


(3)設置場所のふん囲気について

- 業務用薬品を使用する場所はさけてください。
  美容院・クリーニング店・工場などで使用される業務用薬品（アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物・酸類など）を使用する場所には設置しないでください。
  （器具を急速に腐食させます。）



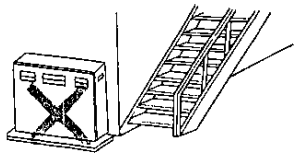
- 換気扇、レンジフードからの油煙・蒸気などが器具にかかる恐れのある場所への設置は不完全燃焼などの原因となりますので絶対にさけてください。



設置前のご注意

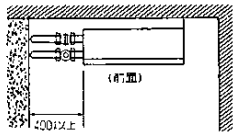
(4)設置場所の周辺について

- ガスメータ、ガス配管、ガス容器、その他の電気設備の直下や近くへの設置はさけてください。
- 人の出入りの激しい場所への設置はさけてください。
- 階段、避難口の近くへの設置はさけてください。



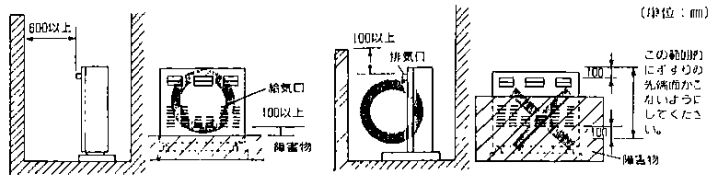
- 器具の左側方は配管時のためのスペースとして400mm以上離してください。

〈上から見た図〉　(単位：mm)



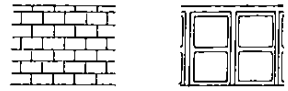
- 器具の前方は保守・点検のために600mm以上離してください。また給排気に影響のある器具前方の障害物の高さは器具の給気口下端より100mm以上低くするかまたは排気口先端より100mm以上高くしてください。

(単位：mm)



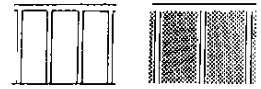
- 上の図に適用される障害物の形状

【ブロックべい】　【ボードなどの壁面】



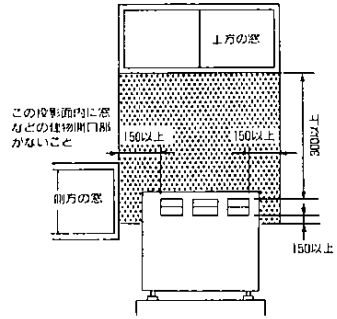
- 給排気に影響のない形状

【格子】　【網】



- できる限り周辺に窓のない場所に設置してください。もし、上方に窓のある場合は300mm以上、側方に窓のある場合は150mm以上離してください。(室内に排気ガスが流入するのを防ぐため)

(単位：mm)



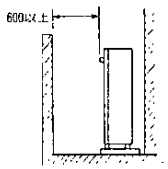
[建設開口部とは]

ここでいう建設開口部とは建物に設ける窓、ドアなどで可動し開口するもの(引違い窓、すべり出し窓、開きドアなど)をいい、明り取り用に設けるはめ殺し窓、片引き窓の固定されている部分は開口部とはいいません。

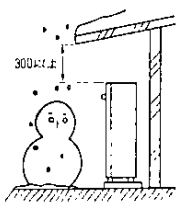
- 設置場所によっては、近隣の家と騒音によるトラブルが生じることがありますので、十分配慮して設置してください。

設置前のご注意

• ベランダなどが避難通路になる場合には、600mm以上の避難通路を確保してください。

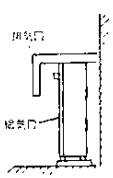


• 積雪で器具の給気口および排気口がふさがれるおそれがあるときは、防雪の設備を行なってください。



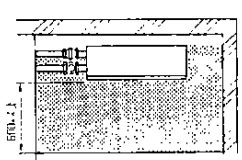
• 給排気口の周辺には障害物を置いたり、付けたりしないでください。排気が給気に逆流して吹き消えや不完全燃焼の原因となります。

• その他、地域によって火災予防条例に規制される項目がある場合、その条例に従って設置してください。



(5)保守・点検のためのスペース

• 器具の点検・修理ができるように十分なスペースを確保してください。器具前方は600mm以上の空間を設けてください。



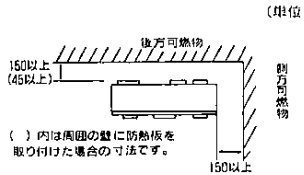
■ 付帯設備工事について

設置場所が決まりましたら、器具を設置する前に、次のような工事が必要です。

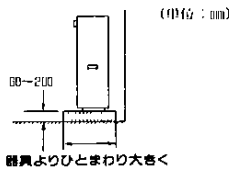
(1)床・壁工事

• この器具を設置する床には約60kg（器具満水時）の重量が加わりますので十分な強度がない場合は、補強工事をしてください。

• 可燃性の壁の場合で器具との間に防火上必要な間隔をとれない場合は、可燃性の部分を防火上有効な防護措置をする必要があります。



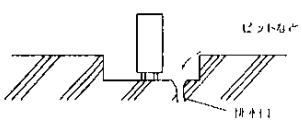
• 浴そうとふろがまの設置位置が決まりましたら、器具用の不燃材の設置台を設けてください。



• 床面は水平にしてください。
床面が傾斜していますと、凍結の原因になります。

(2)排水処理工事

器具を設置した真下の地面・床面は水がたまらないように排水処理工事を行なってください。
試運転時、メンテナンス時および水系統の安全装置の作動時など、水が漏れる場合があります。



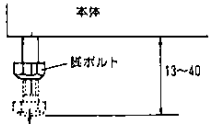
(3)配管・電気配線工事

「給水・給湯配管」・「ガス配管」・「電気配線」・「自動お湯はり・風呂追いだき配管」の各工事については、10～38ページをお読みください。

器具の設置

(1)器具本体の設置　　(単位：mm)

- 器具は不燃材の設置台の上に水平に据え付けてください。
  器具の脚ボルトで調節してください。

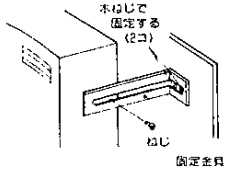


- 器具を壁面に固定金具で固定してください。器具と壁面の距離は、45mm以上としてください。
  (3ページ「火災予防について」参照)

①本体右側面のねじを外し、固定金具をねじでもとの位置に仮止めしてください。

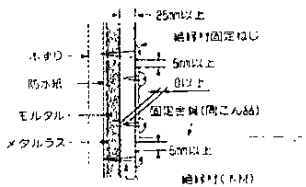
②固定金具を木ねじで壁面に固定してください。

③仮止めしていたねじを締めて固定してください。

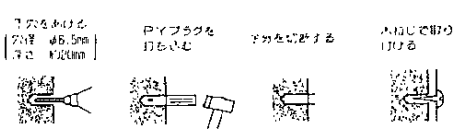


- メタルラス張りなどの壁に固定金具を取り付ける場合は、器具とメタルラスとは電気的に接触しないように右図のような工事をしてください。
  (電気設備技術基準第182条により義務づけられています。)

上から見た図



〔注〕コンクリート、モルタルなどの壁のときは、PYプラグを壁に打ち込んでください。

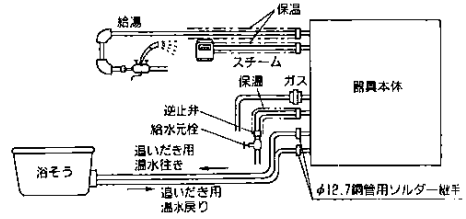


給水・給湯配管工事

■ 器具配管接続図

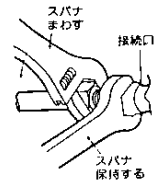
器具本体まわりの配管接続は、右図の通り行なってください。

給水		20A(R¾)
給湯		20A(R¾)
風呂追いだき用給湯	往き	15A(R½)
	戻り	
	配管	φ12.7銅管
ガス	LPガス用	15A(R½)
	都市ガス用	20A(R¾)
スチーム		15A(R½)
排水配管		25A(1インチ)



■ 給水配管

(1)配管工事は、給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。給水・給湯配管工事で器具本体の接続口と配管をするときは、必ず、スパナなどを接続口のスパナがけ部にかけて器具本体に無理な力がかからないように注意しながら、配管工事をしてください。



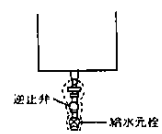
(2)給水圧力について

- この器具は点火するために、〔器具の作動水圧〕＋〔給湯配管の損失水頭〕(通水時)以上の給水圧力を確保必要があります。

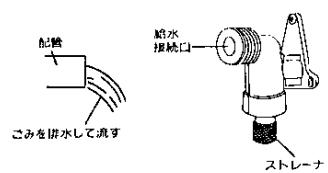
必要給水圧(器具入口圧)＝作動水圧(0.15kg／cm²)＋損失水頭＋α(余裕)

・必要給水圧は給湯栓を全開にして通水したときの器具入口部の水圧です。
・損失水頭は配管径によって異なります。「大阪ガス住宅設備機器カタログ」の「給湯配管設計」をご参照ください。

(3)必要水圧が確保できることを確認してから給水配管を行なってください。
(4)器具の給水接続口の近くには、必ず給水元栓を取付けてください。保守点検のときや、水抜き操作を行なうときに必要です。
(5)給水管の接続口を間違えないようにしてください。接続口を間違えると器具は使用できません。
(6)器具の近くで給水配管中に、操作の容易な逆止弁と給水元栓を取り付けるか、逆止効果のある給水元栓を取り付けてください。



(7)器具に接続する前に、必ず水を流して配管内のごみを排出してください。



給水・給湯配管工事

■ 給湯配管

(1)配管は脱酸銅管の使用をおすすめします。
鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対にやめてください。使用している間に破裂する危険があります。

(2)器具は湯をひんぱんに使う場所の近くに取り付け、給湯配管はできるだけ短距離にしてください。

(3)継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はやめてください。

(4)必要以上の太い配管はやめてください。

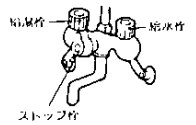
(5)給湯配管は空気だまりを作らないようにしてください。
配管中に空気だまりがあると、給湯栓を閉めてから給湯側のバーナが消火するまでに時間がかかったり、給湯側を使用しないときに、他の水道栓を開閉すると、給湯側のバーナに瞬間的に火がつくなどの現象が生じます。

(6)給湯配管は水抜きが容易にできるようにしてください。
給湯配管は水抜きが容易なように1／100～1／200程度の先上がり勾配をつけてください。

(7)シャワーセットおよび混合水栓について

- シャワーセットは圧力損失の少ないものを使用してください。圧力損失の高いシャワーセットを使用されますと、十分な湯量が得られない場合があります。
- 混合水栓（シャワー付、シャワーなし）には、次のようなタイプの他いろいろな種類がありますので用途にあわせてご使用ください。

ワンストップ混合水栓



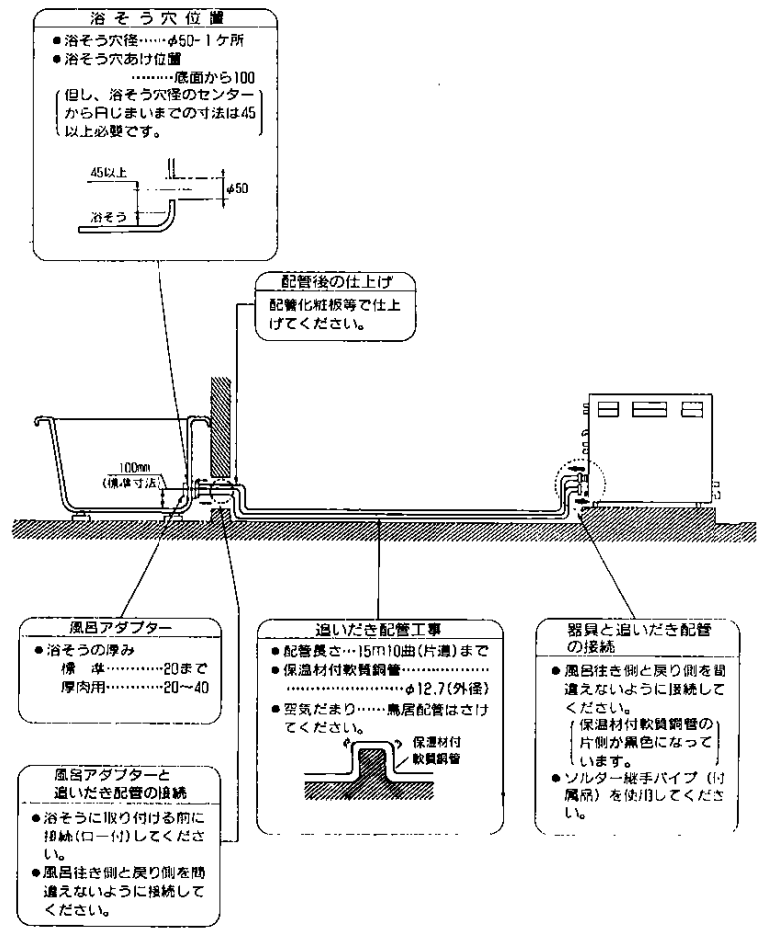
サーモミキシング混合水栓

(8)2階へ給湯する場合は、器具入口で1.5kg／cm²以上（通水時）の給水圧力が必要です。
（詳しくは、必要水圧の計算をし、その値より大きな給水圧力を確保してください。）

自動お湯はり・風呂追いだき配管工事

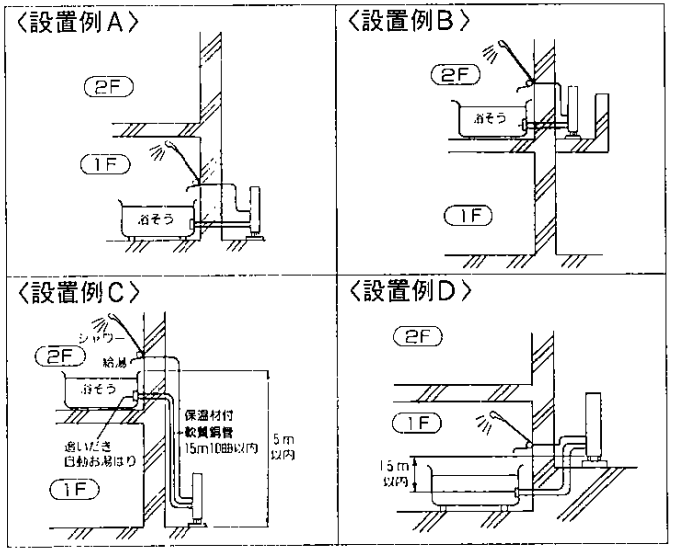
■ システム図

〔単位：mm〕



自動お湯はり・風呂追いだき配管工事

■ 設置例



■ 風呂アダプターの準備

浴そう側には、風呂アダプターが必要です。
設置条件により適切なタイプをご使用ください。

［ご注意］
このアダプターは厚さ20mm以下の浴槽に使用できます。厚さが20mmをこえる浴槽や木製浴槽には厚肉浴槽用風呂アダプター(4)36-934型を合わせてご使用ください。
- 厚肉浴槽の場合は右の品番のものを使用してください。

浴槽肉厚	品番
20～40mm	(4)36-934型

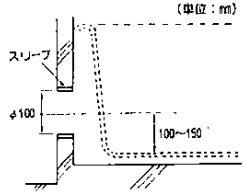
■ 配管工事

- 追いだき配管は保温材付き15A銅管を使用してください。
- 追いだき配管の延長距離は、15m10曲り以下になるように設置してください。
- 鳥居配管はさけてください。

●スリーブ工事

基礎のコンクリート打ちの前にφ100以上のスリーブを浴槽の穴位置と同じところに入れておいてください。

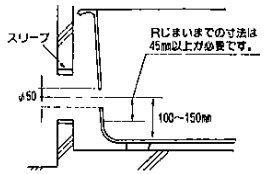
(単位：mm)



●浴槽穴開け工事

浴槽の底部から約100mmの位置にφ50mmの穴を1ヵ所あけてください。

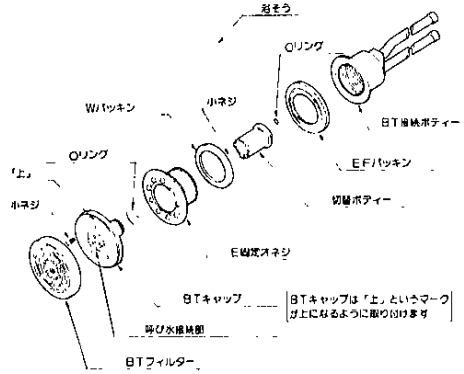
(単位：mm)



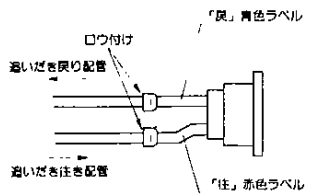
＊標準寸法以外ですと湯き上がり温度が均一になりにくくなります。

●浴槽との接続

①風呂アダプターをいったん分解します。
- 風呂アダプターのＢＴフィルター、ＢＴキャップ、Ｅ固定オネジ、Ｗパッキン、ＥＦパッキンを外してください。
- ＢＴキャップとＢＴフィルターは、ＢＴキャップを固定してＢＴフィルターを回転させると外れます。

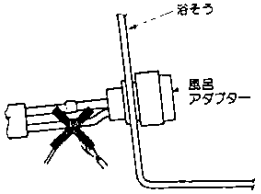


②風呂アダプターのＢＴ接続ボディーと銅管を接続します。
- ＢＴ接続ボディーの取付姿勢は、浴槽への往き側接続部が風呂ＢＴ接続ボディー中心の上下左右いずれの位置でも自由ですが、浴槽に取り付けたときに銅管がねじられないよう、寸法・姿勢を決めてください。
- ＢＴ接続ボディーと銅管とのロー付けを行います。追いだき戻り配管とＢＴ接続ボディーの戻り側(「戻」の青ラベル付)、追いだき配管とＢＴ接続ボディーの往き側(「往」の赤ラベル付)とをロー付けしてください。



［注］風呂アダプター(4)36-930型(ロー付け接続)の場合

- 風呂アダプターを浴槽に取り付けたまま、銅管をロー付けすると、浴槽(特にポリ浴槽)やパッキンなどをいためることになりますので、必ずＢＴ接続ボディーと銅管を接続したあとで、浴槽に取り付けるようにしてください。



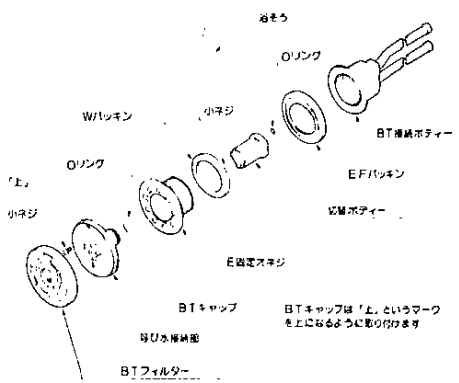
風呂アダプター	接続形状
(4)36-930型	保温材付15Ａ銅管 ロウ付け
(4)36-931型	保温材付15Ａ銅管 ロウ付け
(4)36-932型	パッキン フレキシブルパイプ

③ＢＴ接続ボディーを浴槽の穴に合わせてください。

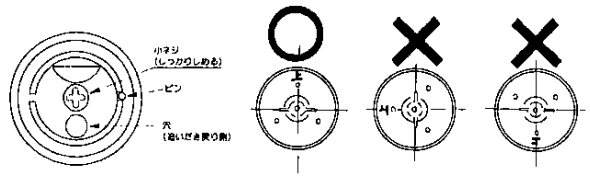
- 銅管を接続したＢＴ接続ボディーが浴槽の穴にうまく合わない場合は、無理やり取り付けないで、もう一度、銅管接続をやり直してください。

④ＢＴ接続ボディーと浴槽の接続

- 浴槽へは下の構成で組み付けます。



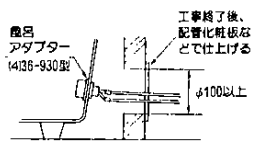
- 切替ボディーをＢＴ接続ボディーに組み付ける時は、ＢＴ接続ボディーのピンが追いだき戻り側の穴に対して、図の位置になる様に、また穴が完全に見える位置までしっかりととめてください。追いだき戻り配管とＢＴフィルターが連通します。
- 切替ボディーのＯリングは必ず取付けてください。
- ＢＴキャップは「上」が最も上方になる位置でねじ止めしてください。
- ＢＴキャップの取り付け方向が正しくない場合は、風呂の沸き上がり温度が上下均一になりません。



■ 浴槽との連結例

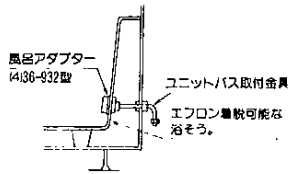
- 壁貫通して接続する場合

主に戸建１階浴槽など、直に壁を貫通して接続する場合は、風呂アダプター(4)36-930型を使用します。



- ユニットバスに取り付ける場合

主にユニットバスの浴槽など、ユニットを貫通して接続する場合は、風呂アダプター(4)36-932型とユニットバス取付金具(市販品)を合わせて使用します。



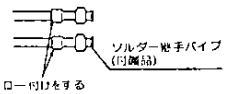
自動お湯はり・風呂追いだき配管工事

■ 器具と追いだき配管の接続

①保温材付き15Ａ銅管とソルダー継手パイプ(付属品)をロー付けする前に、必ず銅管の長さを調節してください。

②風呂往き側と風呂戻り側、各々の銅管を曲げてソルダー継手パイプを器具に仮止めして、各々の長さが適切であるか確認してください。

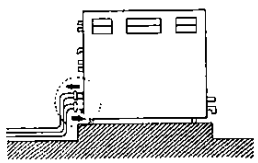
※銅管の長さが長すぎたり、短いと器具本体に無理な力がかかり器具本体を損傷したりソルダー継手パイプが破れて外れたりする恐れがあります。



③ソルダー継手パイプを器具から外し、保温材付き15Ａ銅管とソルダー継手パイプをロー付けしてください。

④パッキンを必ず取り付けて、ソルダー継手パイプと器具とを風呂往き側と戻り側を間違わないように接続してください。

※器具と保温材付き15Ａ銅管の接続部に漏れがあると正確な水位検知ができません。

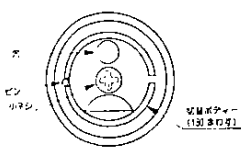


◎風呂追いだき配管の「往」・「戻」を間違えた場合、配管部の接続をやり直さなくても以下の方法で変更できます。

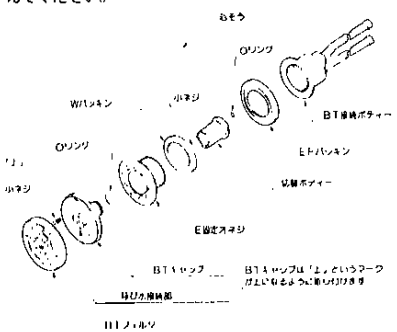
①ＢＴフィルターを左に回して取り外してください。

②ねじ３本を外し、ＢＴキャップを取り外してください。

③切替ボディーを固定しているねじをゆるめて切替ボディーを180°回転し、もう一つの穴が完全に見える位置でしっかりととめてください。



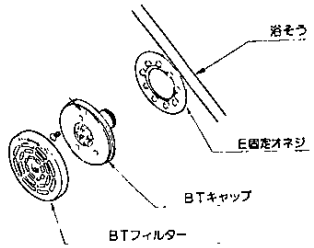
④ＢＴキャップ、ＢＴフィルターを元のように組み込んでください。



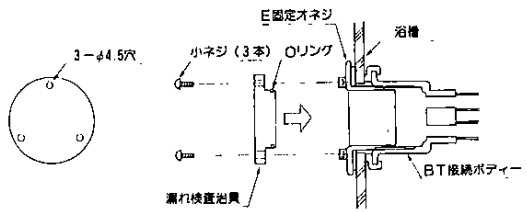
■ 漏れ検査

漏れ検査は必ず専用の漏れ検査治具(工事番号05-06-03・07)をご使用ください。

①風呂アダプターのＢＴフィルター、ＢＴキャップを外します。



②漏れ検査治具をＥ固定オネジに挿入し小ネジ(ＢＴキャップを外したもの)で固定します。



③検査の圧力と時間

Ⓐ追いだき配管部を器具から外します。

Ⓑ追いだき配管部に水圧又は空気圧をかけ圧力計により漏れを確認してください。

水圧の場合　2.0kg／cm²…30分間以上

空気圧の場合　1.0kg／cm²…30分間以上

④試験後、ＢＴキャップを「上」が最も上方になる位置でねじ止めしてください。ＢＴキャップは確実に組み付けてください。ゆるんでいますと、正常に動作しない原因となります。

■ 検査の一般事項

①試験方法は、圧力試験と目視触感によって検査してください。

②試験は保温工事の前に行なってください。

③試験の対象となる配管は、事前に「管内の洗浄」「空気抜き」をかねた通水試験を実施してください。

④水圧試験機、試験用具をセットした後、予備検査(圧力をかける)を行ない、管内の空気を確実にパージしてください。

⑤検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものとし、十分信頼できる計器を使用してください。

⑥集合住宅の場合は、配管完了後漏れ検査を行なった後、養生のため配管内に圧力を封じておくこと。なお圧力を容易に確認するため圧力計を設けておくこと。

自動お湯はり・風呂追いだき配管工事

■ 凍結防止

- 配管は必ず保温材で被覆してください。
- 配管内の水抜きが容易にできるように措置をしておいてください。
- 水抜き方法は、取扱説明書の29～30ページをお客様に説明してください。

ガス配管工事

■ ガス配管工事

①配管径は、下の配管径にしてください。

LPガス	15A(R½)
都市ガス13A	20A(R¾)

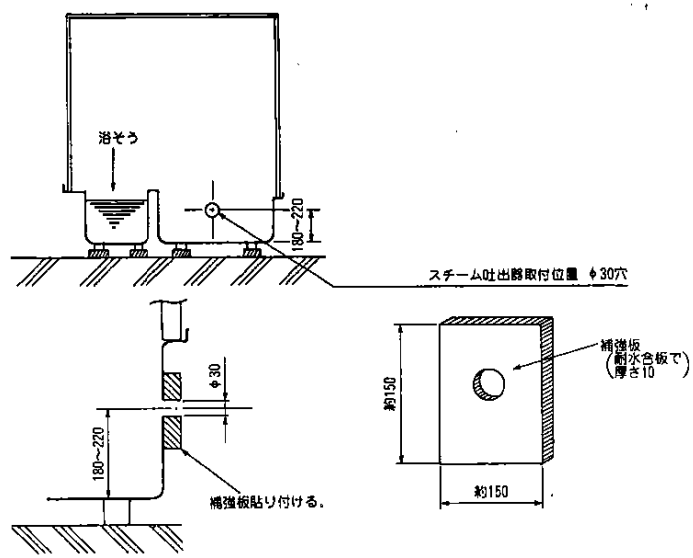
②ガス接続ユニオンを必ず取り付けてください。
③配管材料は配管用鋼管(JISのSGP管)をご使用ください。
④ガス元栓を必ず取り付けてください。

スチーム配管工事

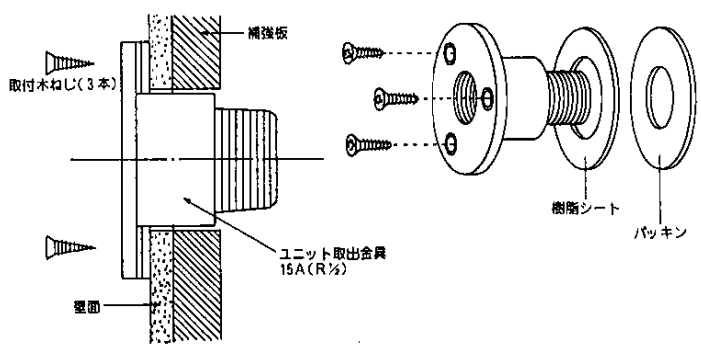
■ スチーム吐出器の取り付け方

〈ユニットバスの場合〉

〔単位:mm〕

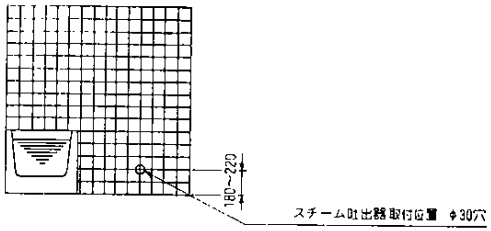


ユニット取出金具(市販品)を取り付ける。

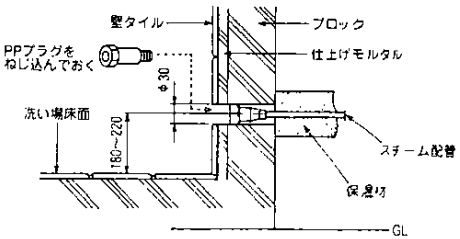


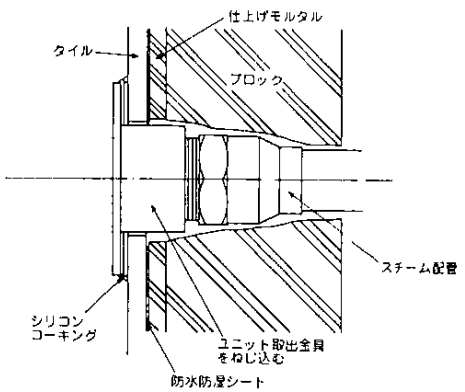
スチーム配管工事

〈乾式工法によるタイル浴室の場合〉　（単位：mm）

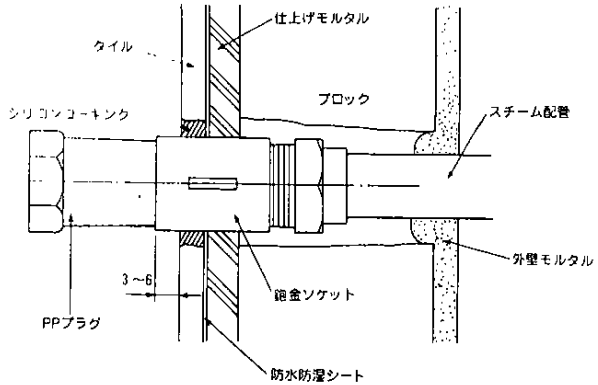


(1)ユニット取出金具を使用する場合

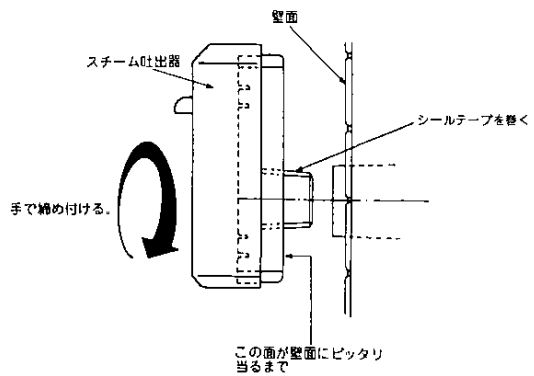




(2)ソケットを使用する場合〈スチーム吐出器取付部〉　（単位：mm）



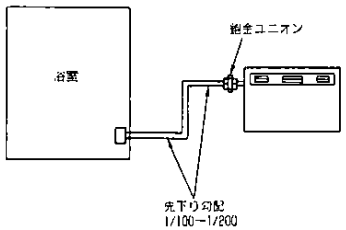
スチーム吐出器の取り付け



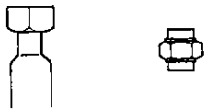
スチーム配管工事

■ スチーム配管

(1)配管は脱酸銅管または、スチーム配管用保温材付銅管、工事材料(01-02-10,01または01-02-10,02)を使用してください。
鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対にさけてください。使用している間に破裂します。
(2)器具は浴室の近くに取り付け、スチーム配管はできるだけ短距離にしてください。(18m以下のこと)
(3)継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はさけてください。
(4)スチーム配管は15A(½インチ)以上にしてください。
(5)スチーム配管は必ずスチーム配管用保温材、工事材料(03-01-07,01)をご使用ください。屋外配管にも使用できます。
(6)スチーム配管は凝縮水が自然に抜けるように1／100～1／200の先下り勾配を付けてください。

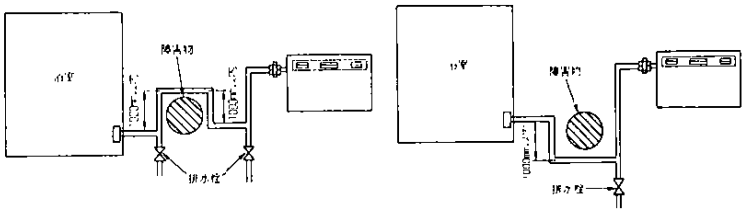


(7)器具とスチーム配管の接続は鉛金ユニオンを使用してください。ナット付銅管アダプターは使用しないでください。

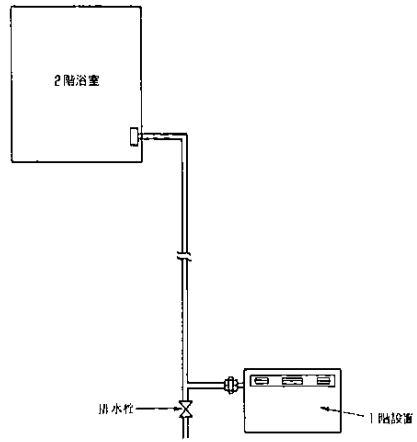


ナット付銅管アダプタ　鉛金ユニオン

(8)スチーム配管が万一、下図のようになったときは、スチームの凝縮水が抜けなくなりますので必要な箇所に排水栓を設けてください。
凍結防止のためです。
ただし、立上がり、立下りが1000mm以内なら排水栓は不要です。

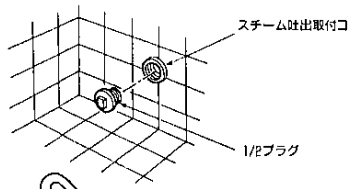


(9)2階の浴室へスチームを供給する場合は、最下部に排水栓を設けてください。
凍結予防のためです。

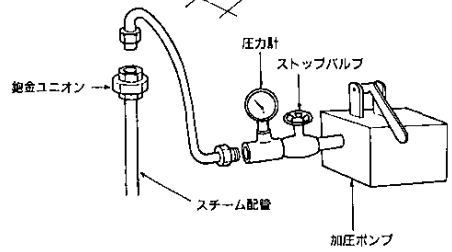


(10)スチームの供給は必ず1ヵ所にしてください。付属のスチーム吐出器以外は取り付けないでください。
(11)スチーム配管の途中に弁類は絶対に取り付けないでください。
(12)スチーム配管工事終了後必ず空気圧か水圧を加えて漏れ検査をしてください。(2kg／cm²以上)

スチーム吐出器取付口に½プラグをねじ込んでフタをする。
(漏れ検査が終わりましたら½プラグをはずしてスチーム吐出器を取り付けてください。)



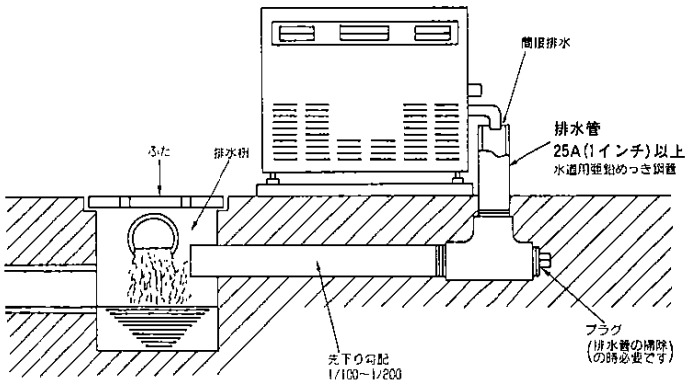
加圧ポンプで圧力をかけます。
水圧2kg／cm²……5分間漏れなきこと。
● 工事材料(10-06-1)



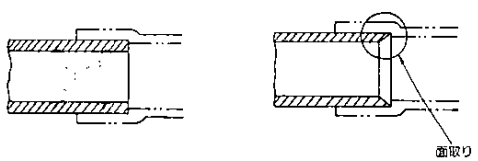
スチーム配管工事

■ 排水配管

- 排水管はできる限り短くしてください。
- 排水管はスケール片も流れますので曲りが多すぎますと詰まります。
- 図のように必ず間接排水にしてください。
- 器具の近くに排水栓を設けてください。



排水配管に耐熱塩ビ管を使用される場合は必ず図のように面取りをしてください。
面取りをしないとスケール片が詰まります。



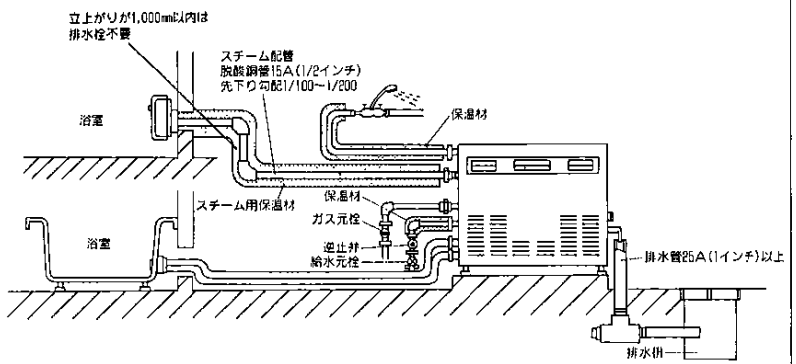
排水の温度は100℃です。必ず耐熱塩ビ管をお使いください。

■ 給水・スチーム・排水配管例

- 給水配管材料、接続方法、シール材は、各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- スチーム配管は、脱酸銅管をご使用ください。

器具の給水接続口の近くに給水元栓と逆止弁を取り付けてください。

内部のごみ、工事材料くずなどを洗い出したうえで接続してください。



電気配線工事

■ 電源

(1)使用電源の確認

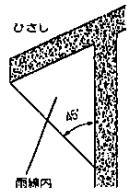
この器具にはＡＣ100Ｖ電源が必要です。

- 器具本体を設置する場所に電源コンセントがない場合、または、あっても適切でない(位置・容量など)場合には、新設・移設または交換などが必要です。
- 電気配線については、電力会社の指定工事店にご相談ください。

(2)電源コンセントについて

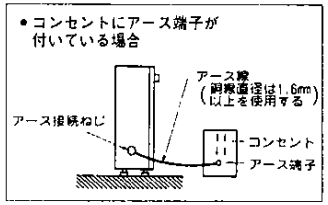
〈外壁設置の場合〉

- ＪＩＳ防雨形防水コンセントを設置してください。
- 防雨形防水コンセントの場合は、コンセントに雨がかからないように、次のいずれかの処置を行なってください。
  ①雨線内に設置する。
  ②外箱などの有効な防雨処置をする。
  ③室内の分電盤を利用する。



■ アース(接地)工事

- 感電事故防止のため、次のいずれかの方法で必ずアースしてください。

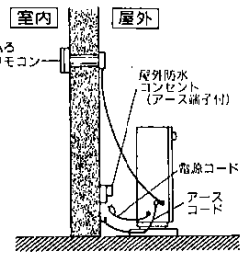


- 電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士による第３種接地工事を行なってください。
- 器具本体の左側面に「アース」表示、または本体内部には漏電安全装置の下部にＥ表示で接続端子部を示してありますので、工事に合わせていずれかをご利用ください。

〔ご注意〕

- ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路または漏電しゃ断器を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。［法令などで禁止されています。］
- アース端子付コンセントを利用される場合には、接地抵抗値［100Ω以下］をご確認ください。

■ 電気配線工事の形態と注意事項

形態	注意事項
	1.防水コンセントにアース端子が付いていない場合は、別途、第3種設置工事を行なってください。 2.防水コンセントは、地上より300㎜以上の高さの位置に取り付けてください。 3.コンセントとガス管および水道管とは100㎜以上離してください。

■ 使用ケーブル線 (別売部品：(4)38-132型)

(1)器具本体～リモコン間は、2心ケーブル線を使用してください。

(2)ケーブル線は、動かないようにステップルなどで固定してください。

(3)ケーブル線は、直接熱の影響を受けないところに配線してください。

(4)ケーブル線をコンクリートなどに埋めこむ場合には、電線管などに収めてケーブル線に傷が付かないように保護してください。

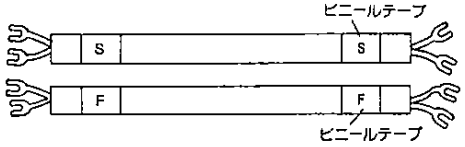
- メタルラスなどを有する壁を貫通する場合は、メタルラスなどと金属電線管が接触しないように十分距離を確保してください。

(5)ケーブル線の総延長が20ｍ以内になるように配線工事を行なってください。

- ケーブル線を電線管に入れて配線をする場合は、ケーブル仕上がり外径は、端子をケーブルにかしめる前と後とでは、異なりますので注意してください。

(6)この器具には4個のリモコンがあります。誤接続を防止するためにケーブル線にはあらかじめ印をしておいてください。

(例)



S…スチーマ
F…給湯・風呂
(ビニールテープを巻いてマジックインキでSまたはF)

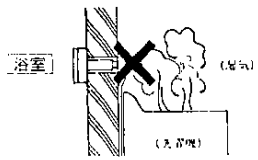
■ 風呂リモコンの取付方法

1重要禁止・注意事項

①壁に穴をあけるとき、大きくあけすぎますと風呂リモコンの固定ができなくなりますので、特にご注意ください。
②風呂リモコン取付工事のときに必要のないねじは絶対に締め付けたり、ゆるめたりしないでください。(シール性能が悪くなることがありますのでご注意ください。)
③浴室へ取り付ける場合、壁に貫通穴をあけますので、壁の内部にある柱・鉄筋の位置をご確認のうえ、取付場所を決めてください。
④風呂リモコンは防湿構造になっていますから、パッキンのそう入、ねじ締めのときは、慎重に作業を行なってください。
(特に、ごみ・異物の混入、パッキンの位置ずれにご注意ください。)

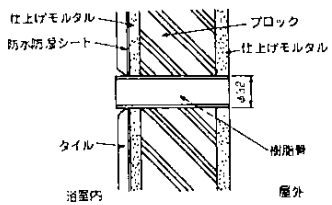
2風呂リモコンの取付場所

- 温水・湿気、または水が直接かかりにくい場所を選んで、風呂リモコンを取り付けてください。
- 壁を貫通した空気抜きパイプの先端は、湿気の激しい場所をさけてください。



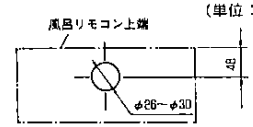
3壁取付穴の穴あけ

- 乾式工法によるタイル浴室の場合は、タイルを貼る前に外径φ32の樹脂管を入れておくと室内外ともきれいに仕上がります。

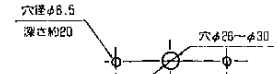


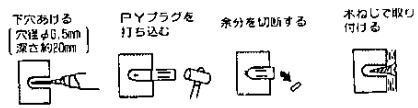
(単位：mm)

- 空気抜きパイプ用の貫通穴を外壁仕上げ後、および浴室内のタイル貼付後にあける場合はφ26～φ30の穴を壁に対して直角にあけてください。



[注] 風呂リモコンは裏面の両面テープで固定できますが、より確実に取付するときは、同こんの木ねじ(2コ)で固定してください。
壁がタイルなどで木ねじが使用できないときはφ6.5深さ20mmのＰＹプラグの下穴をあけてください。
図のように穴をあけ、同こんのＰＹプラグを打ち込みます。
木ねじの先にはシリコンコーキング材を塗って締めてください。



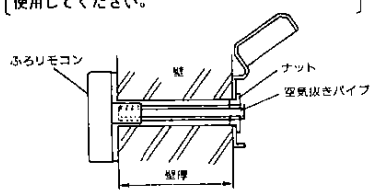


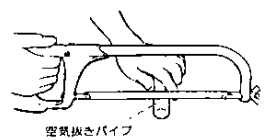
4浴室への取り付け

- 壁が70～220の間で取り付けができます。空気抜きパイプを下表の要領で切断して取り付けてください。

(単位：mm)

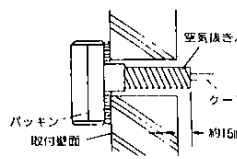
壁厚が220～335mmの場合
別売部品の厚壁スリーブ［品番：(4)36-050型］を使用してください。

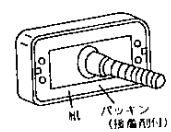




5ふろリモコンを壁面に固定します。

①空気抜きパイプにケーブル線を通します。
②空気抜きパイプの長さが壁厚より約15mm長くなるように空気抜きパイプをねじ込んでください。
③風呂リモコンのパッキン(接着剤付)に貼り付けている紙をはがしてください。
④パッキンの付く壁面を水気が残らないよう乾いた布などでよくふいてください。





⑤風呂リモコンが傾かないよう注意して壁面に押し付け、固定してください。

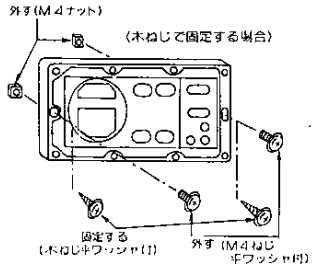
- 風呂リモコンを木ねじで固定する場合は

(1)風呂リモコン左右2箇所のM4ねじ(2本)とナット(2個)を外します。

(2)同こんの木ねじ(2本)で固定します。

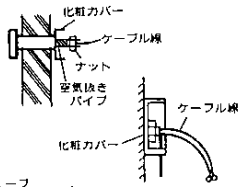
木ねじの先にシリコンコーキング剤を塗ってください。

ＰＹプラグの穴位置が合っていることを確認し、木ねじで固定します。



[6]ナットで化粧カバーを壁に固定します。

ケーブル線を化粧カバーの穴とナットに通したあと、壁面に飛び出した空気抜きパイプにナットを締め付けて固定してください。

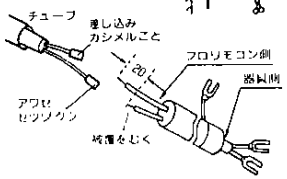


[7]ケーブル線の接続

チューブをケーブル線に入れます。

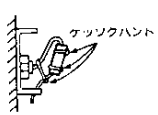
器具本体からのケーブル線の被覆をむき心線を約10mm出し風呂リモコンから出ているケーブル線の先端に接続しているアワセセツゾクシの中に入れカシメてください。

チューブでカシメ部をカバーしケッソクバンドでチューブを結束してください。



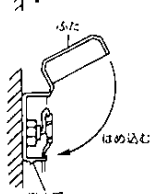
[8]ケーブル線の処理

接続部が化粧カバー内におさまるように、ケッソクバンドで結束してください。



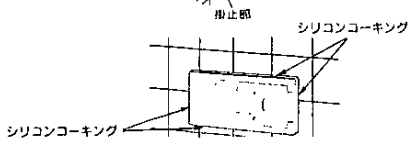
[9]化粧カバーを取り付けます。

化粧カバーのふた部分を右図のように掛止部にはめ込んで固定してください。



[10]周囲をシリコンコーキングします

取り付け終了後、壁面と風呂リモコンの周囲をシリコンコーキングしてください。



■ メインリモコンの取付方法

給湯・風呂用メインリモコン
スチーマメインリモコン

給湯風呂用メインリモコンとスチーマメインリモコンを並べて取り付けられる時は、どちらか一方のケーブルに印をしておいてください。誤接続防止のために重要です。(28ページ参照)

[1]重要禁止・注意事項

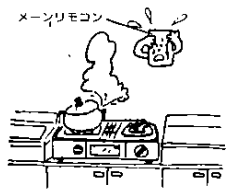
(1)壁に穴をあけるとき、大きくあけすぎるとメインリモコンの固定ができなくなりますので、特にご注意ください。
(ＰＹプラグ用の下穴は、使用されるＰＹプラグに合わせてください。)
(2)メインリモコン取付工事に必要のないねじは絶対に締め付けたりゆるめたりしないでください。
(3)取り付ける場合、壁に貫通穴をあけるときは、壁内部にある柱・鉄筋の位置をご確認のうえ、取付箇所を決めてください。
(4)ケーブル線は、別売部品の(4)38-132型を使用してください。
(5)ケーブル線は、うごかないようにステップルなどで固定してください。
(6)ケーブル線は、直接熱の影響を受けないところに配線してください。
(7)ケーブル線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに収めてケーブルに傷が付かないように保護してください。
- メタルラスなどを有する壁を貫通する場合は、メタルラスなどと金属電線管が接触しないように十分距離を確保してください。

(8)工事を行なう時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
(9)ケーブル線の総延長が20m以内になるように配線工事を行なってください。

[2]設置場所のご注意

(1)ガステーブル・こんろなどの燃焼器具の上には、メインリモコンを取り付けないでください。
- 異常に過熱しますと、変形したり、電気部品が破損したりします。
- 油分や空気中のほこりが内部に入りますと、いちじるしく性能が悪くなります。

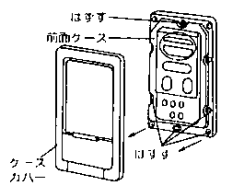
(2)直射日光や、水しぶき、蒸気、水滴のかかる場所には取り付けないでください。



[3]メインリモコンの取付方法

取付前の準備

- ケースカバーをはずしてください。
- メインリモコンのねじ(5本)をはずし、前面ケースと背面ケースをはずしてください。

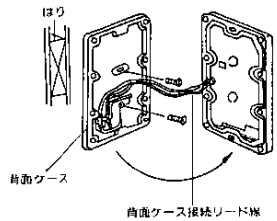


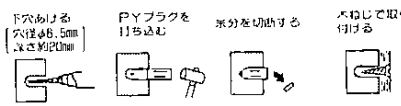
電気配線工事

ケーブル露出配線の場合

(1)背面ケースを同こんの丸皿頭の木ねじ(2本)で壁に取り付けてください。

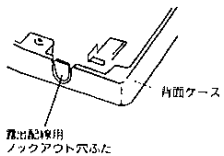
[注]
- 背面ケース接続リード線に1kgを越える過度な力が加わらないようにしてください。
- 壁が弱い状態のときは、「はり」などの補強をしてください。
- コンクリート・モルタルなどの壁のときは、PYプラグ(付属品)を壁に打ち込み、丸皿頭木ねじで取り付けてください。





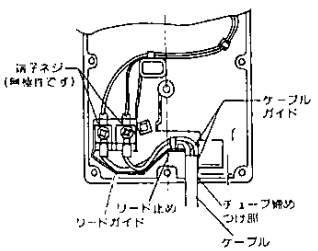
(2)ケーブル線の接続準備

(1)メインリモコンの露出配線用ノックアウト穴をニッパー、ナイフなどであけてください。
- ノックアウト穴をあけるときには、リード線やプリント板や、電子部品に傷を付けないようにしてください。



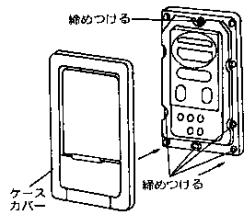
(3)メインリモコンとケーブル線を接続してください。

(1)端子ネジをゆるめケーブル線の端子を端子台にとりつけ、端子ネジを締め付けて接続してください。(2本)
(2)2心リード線をリードガイド内にはわしリード止めに止めてください。ケーブル線はケーブルガイド内におさめてください。
(3)チューブ締め付け部は前面ケースを取りつけたとき、ケースのリブに締め付けられケーブルが固定されるようになっています。



(4)メインリモコンの背面ケースと前面ケースを組立て、ケースカバーをはめこんでください。

①背面ケースに前面ケースを合わせます。
[注]チューブ締め付け部以外ですきまが生じる場合は、リード線がケース等にかみこむ等の障害を直してください。
②ケース締め付け用のねじ(5本)を締め付け背面ケースを固定してください。
③ケースカバーをはめこんでください。

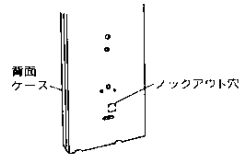


(5)ケーブル線をステップルで壁に固定してください。

ケーブル埋込配線の場合

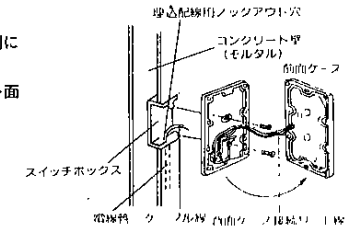
(1)ケーブル線の接続準備

スイッチボックス用のノックアウト穴をあけてください。
(ニッパーで切り取ってください。)
- ノックアウト穴をあけるときには、プリント板や、電子部品に傷をつけないようにしてください。

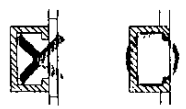


(2)背面ケースを壁に取り付けてください。

①事前工事として、壁に電線管を設けてから、室内側にスイッチボックス(1個用)を取り付ける。
[注]スイッチボックスは、必ず壁の仕上げ面と同一面となるようにする。

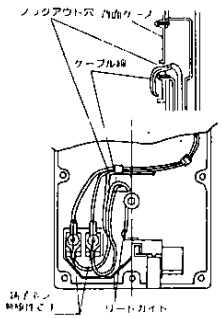


②ケーブル線を電線管からスイッチボックス側より挿入し、背面ケースのノックアウト穴からケーブル線を引き出しておいてください。



③配線ボックスの取り付けねじ穴に、背面ケースの配線ボックス取り付け用穴を合わせ、同こんの丸皿頭ねじ(2本)で固定してください。
[注]電線管の径は、ケーブル線の仕上がり外径・使用本数・接続端子の有無により選定してください。

(3)メインリモコンとケーブル線を接続してください。



①メインリモコン背面のノックアウト穴からそう入されたケーブル線を引きだし、リード止めに止めてください。（右図参照）

②端子ネジをゆるめケーブル線の端子を端子台にとりつけ、端子ネジを締め付けて接続してください。（2本）

③2心リード線をリードガイド内にはわせ、余ったリード線はスイッチボックスに戻してください。

(4)メインリモコンの前面ケースと背面ケースを組み立て、ケースカバーをはめこんでください。

①背面ケースに前面ケースをあわせます。
［注］ケース間にすきまが生じる場合は、リード線がケース等にかみこむ等の障害を直してください。

②ケース締め付け用のねじ(5本)を締め付け背面ケースに前面ケースを固定してください。

③ケースカバーをはめこんでください。

■ スチーマ浴室リモコンの取付方法

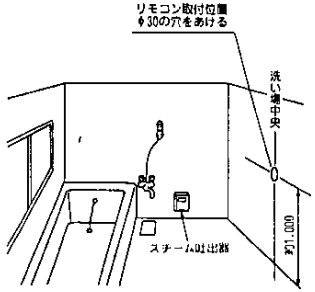
[1]重要禁止・注意事項

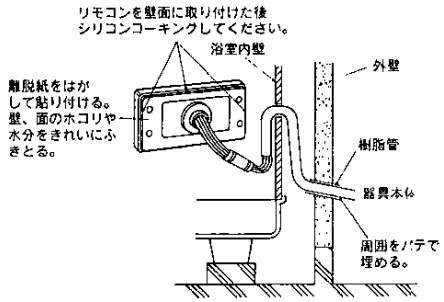
- 浴室リモコンには室温コントロール用のセンサが内蔵されています。下記の項目は必ずお守りください。

(1)スチーム吐出器の近くには取り付けないでください。浴室の温度コントロールができません。
(2)洗い場の床面から約1000㎜の高さに取り付けてください。浴室温度コントロールを正確にするためです。
(3)取り付ける場所は洗い場側の壁面にしてください。
(4)スチーム吐出器とリモコンは同じ壁面に取り付けないでください。
浴室温度コンロールが正確にできません。

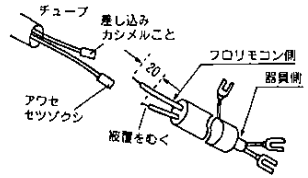
ユニットバスの場合

［単位：mm］



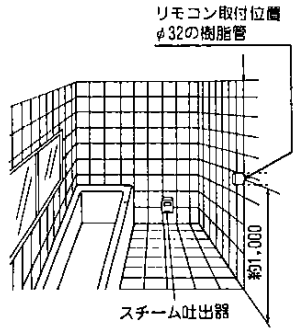


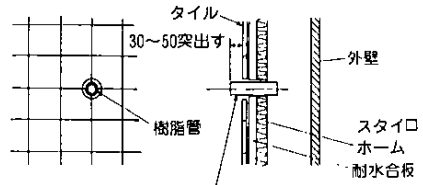
ケーブル線の接続
- チューブをケーブル線に入れる。
- 被覆をむき心線を約10㎜出す。
- 心線をアワセセツゾクシの中に入れカシメる。
- チューブでカシメ部をカバーし、ケッソクセンで結束する。



［単位：mm］

乾式工法によるタイル浴室の場合

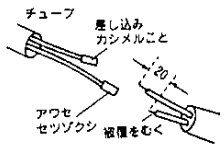


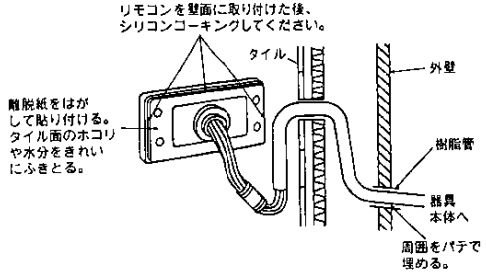


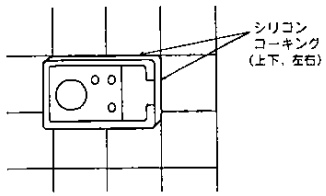
タイルを貼る前にφ32と樹脂管を入れておくと穴が大きすぎたり小さすぎたりしない。リモコン取付時に外す。

電気配線工事

ケーブル線の接続
- チューブをケーブル線に入れる。
- 被覆をむき心線を約10mm出す。
- 心線をアワセセツゾクシの中に入れカシメる。
- チューブでカシメ部を力バーし、ケッソクセンで結束する。







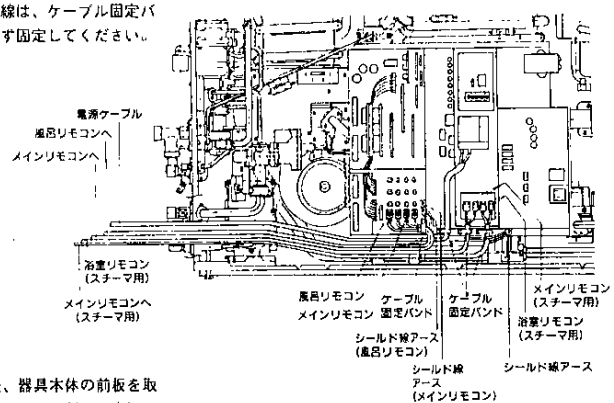
取り付け終了後、壁面と風呂リモコンの周囲をシリコンコーキングしてください。

注) シリコンコーキングは「ユニットバス」「乾式工法によるタイル浴室」のいづれも必要です。

■ 器具本体へのケーブル線接続方法

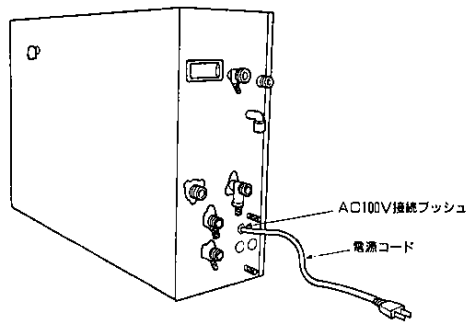
(1)器具本体の電源プラグをコンセントから抜き器具本体の前板を取はずしてください。(ねじ2本)
(2)器具本体左面のブッシングからケーブルを引き込んでください。
(3)リモコン用ケーブル線は、電装ユニットにある端子台に接続してください。

〔注〕
- ケーブル線は、ケーブル固定バンドで必ず固定してください。



(4)配線完了後、器具本体の前板を取り付けてください。(ねじ2本)

(5)AC100V電源コードの接続は器具本体左側面の接続口から通し、漏電ブレーカの電源側に接続してください。その後、100V接続ブッシュで本体左側面に確実に固定してください。



設置工事後の点検確認

設置および工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

■ 器具およびその周辺 (3~8ページ参照)

(1)可燃物との距離および火災予防上の処置は十分ですか。

(2)器具の設置場所のふん囲気は大丈夫ですか。

(3)点検・修理などの保守・管理上必要な空間がありますか。

(4)設置条件を満足していますか。

■ 風呂アダプターの接続部

- 浴そうの接続部、パイプのロー付部からの水漏れがないか、また浴そうの排水栓から水漏れがないか確かめてください。
- 追いだき配管の往き、戻り管に誤接続がないか確かめてください。

■ 給水・給湯配管

給水元栓を開け、配管中の空気を抜くために全部の給湯栓を開けて、水が出ることを確認したあと、全部の給湯栓を閉め、しばらく放置してから水漏れがないか調べてください。このときは電源コードをコンセントから抜くか、またはリモコンの運転スイッチを「切」にしてください。

■ ガス配管

ガス元栓を開け、各接続部に検知液、または石けん水を塗り、ガス漏れがないか調べてください。

■ スチーム配管

保温材で被覆されていますか。

■ 排水配管

間接排水になっていますか。

■ 電気配線工事 (27~38ページ参照)

(1)リモコンから本体電装ユニットへのケーブル配線は指定された位置になっていますか。

(2)ケーブルの端子部のねじはよく締まっていますか。

(3)接地工事はされていますか。

(4)配線接続部に短絡箇所はありませんか。

試点火および試運転

■ 試点火および試運転

(1)ガス配管中の空気抜き

- ガス配管中の空気を完全に抜いてからでないと、火はつきません。

(2)取扱説明書に基づき、試運転を行なってください。
(詳しくは、取扱説明書の「使いかた」をお読みください。)
(注) 自動お湯はり運転は、浴そうに水(湯)がない状態から始めてください。
(残り湯があると正確な水位検知ができません。)

(3)試運転時に異常が発生しましたら、取扱説明書の「故障かな?」を参照しながら確かめてください。

(4)試運転が終わり長期不在のときは、凍結予防のため水抜きを必ず行なってください。(取扱説明書「凍結予防について」の項参照)

※器具と保温材付軟質銅管の間で水漏れがないか十分に確認してください。水漏れがある場合は水位が正確に検知できません。

■ お客様への説明

(1)取扱説明書によって、取扱方法をご説明ください。特に「特に注意していただきたいこと」「使いかた」をよく説明してください。

(2)保証書に必要事項を記入のうえ、お客様にお渡しください。また取扱説明書に従って「アフターサービス」についてご説明ください。

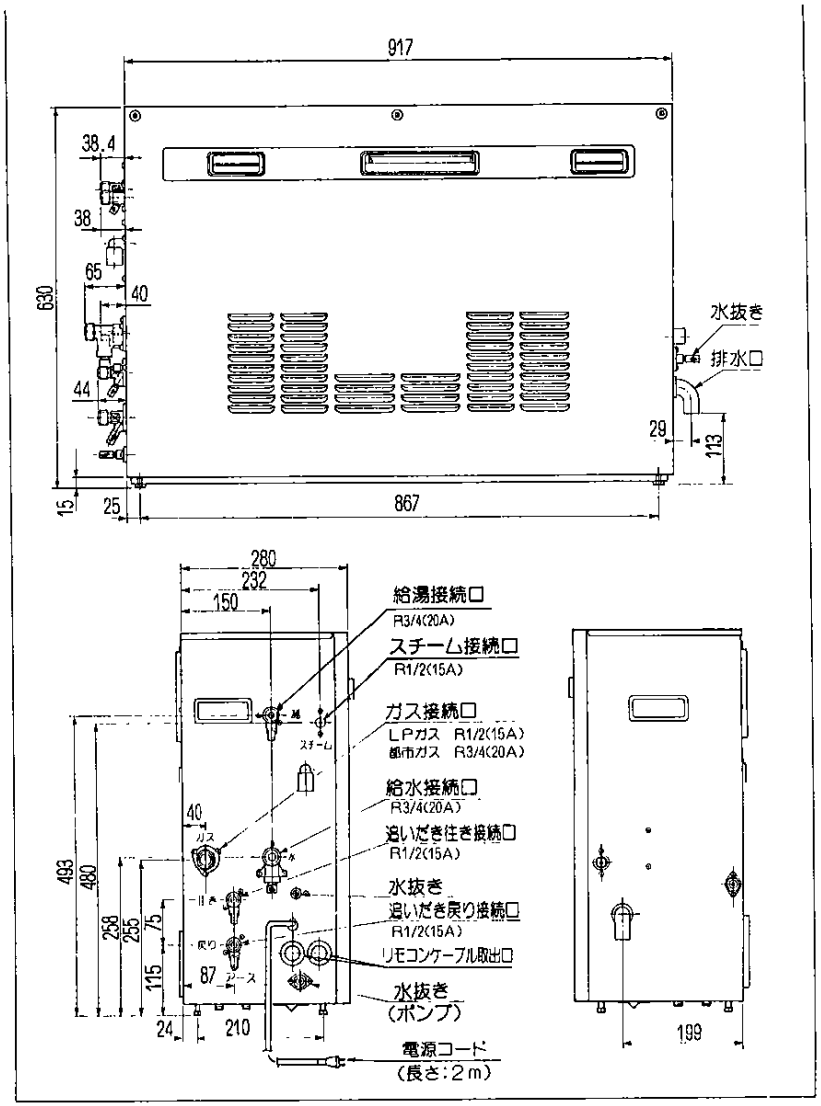
(3)この工事説明書は取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

仕　様

項目＼品種		ガス風呂給湯器・ガススチーマ	
ガスの種類		都市ガス13A用	ＬＰガス用
寸法(mm)	高さ	630	
	幅	917	
	奥行き	280	
重量(kg)		61.5	
最大ガス消費量	風呂釜	12,000kcal/h	1.0(kg/h)
	給湯器	45,000kcal/h	3.51(kg/h)
	スチーマ	11,000kcal/h	0.95(kg/h)
	同時使用	63,000kcal/h	5.0(kg/h)
最大ガス流量	風呂釜	1.2㎥/h	1.0(kg/h)
	給湯器	4.3㎥/h	3.51(kg/h)
	スチーマ	1.1㎥/h	0.95(kg/h)
	同時使用	6.0㎥/h	5.0(kg/h)
出湯能力(ℓ/min)(能力大)(水圧1kgf/cm²)	水温+25℃上昇	(24.0)	
	水温+40℃上昇	15.0	
消費電力		60Hz485W(最大燃焼時245W+凍結予防ヒータ240W)*運転スイッチ「切」の状態:22W	
点火方式		連続放電点火方式	
熱交換器	方式	3缶3水路	
	材質	風呂釜:銅製・給湯器:銅製・スチーマ:銅製	
最低作動水圧(kg/cm²)		0.15	
最低作動水量(ℓ/min)		2.0	
出湯能力(給湯器)		24号~2.5号	
操作方法		リモコンによる操作	
給湯器能力切替え		無段階	
接続	ガス	20A(R¾)	15A(R½)
	追いだき	15A(R½)	
	給水	20A(R¾)	
	給湯	20A(R¾)	
	スチーム	15A(R½)	
	電気	器具本体電源AC100V	
本体と各リモコンとの接続		24V低圧用2心ケーブル(別売)	
安全装置		立消え安全装置・空だき安全装置(風呂)・残火安全装置(給湯) 空だき安全装置(スチーマ)・過熱防止装置・過圧防止安全装置 誘導雷保護装置・漏電安全装置・圧力安全弁・凍結予防ヒータ・電流ヒューズ	
凍結予防装置		凍結予防ヒータ(給湯)　ポンプ循環(風呂)	
付属品		給湯風呂用メインリモコン(一式)・スチーマ用メインリモコン(一式) 風呂リモコン(一式)・浴室リモコン(一式)・ソルダー継ぎ手パイプ(一式) 固定金具(一式)・スチーム吐出器・ハーフサンプル	
別売部品		風呂アダプター(ロー付タイプショートL型)……(4)36−931型 風呂アダプター(フレキ接続ショートL型)……(4)36−932型 厚肉浴槽用風呂アダプター……(4)36−934型 厚壁用スリーブ……(4)36−050型 サフリモコン……(4)36−938型 シャワーヘッド……(4)38−027型	
日水協認可登録番号		A−5259	

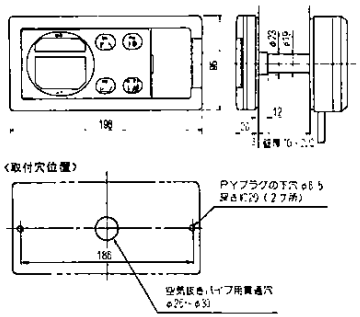
●器具本体より第3種接地工事(アース)が必要です。

外形寸法図

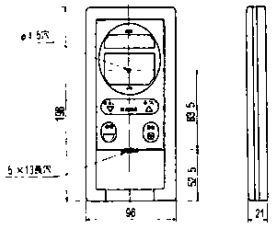


メ モ 欄

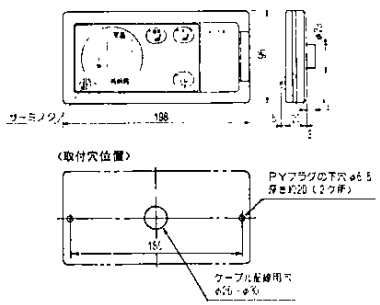
■風呂リモコン(給湯・風呂用)



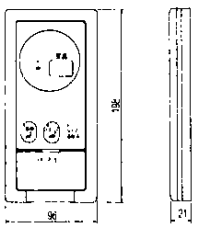
■メインリモコン(給湯・風呂用)



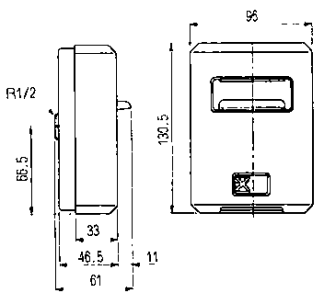
■スチーマ浴室リモコン



■スチーマメインリモコン



■スチーム吐出器



メ モ 欄

メ モ 欄